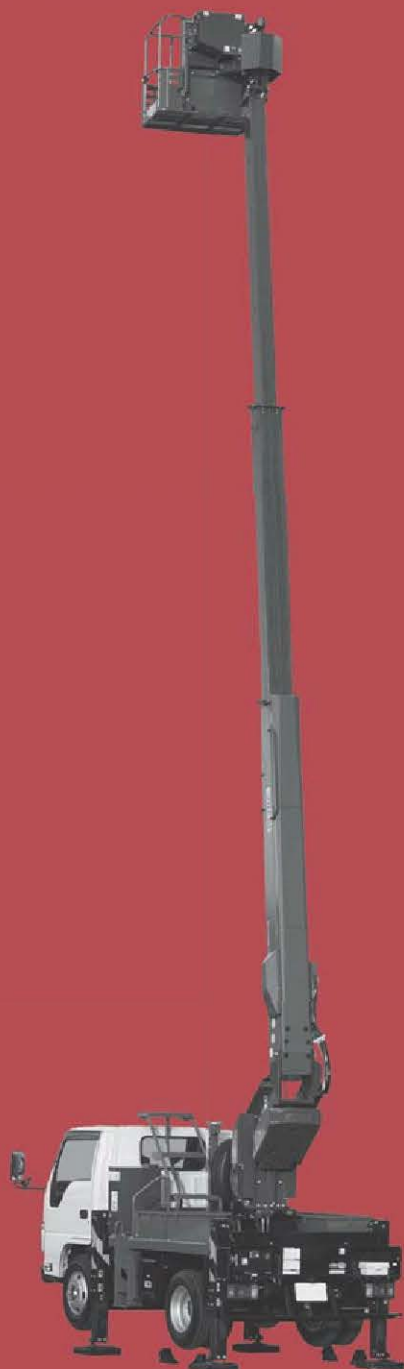


# 車体 NEWS

## WINTER 2017 冬

JAPAN AUTO-BODY INDUSTRIES ASSOCIATION INC.



### CONTENTS

|                                         |    |
|-----------------------------------------|----|
| 巻頭言 .....                               | 2  |
| NEWS 特集 .....                           |    |
| 秋季会員大会を開催 .....                         | 3  |
| 講演会 「国内トラック市場の需要動向と<br>業界を取り巻く環境」 ..... | 5  |
| 第45回東京モーターショー2017に出展 .....              | 7  |
| 2016年度会員企業の売上高／<br>従業員調査まとめ .....       | 9  |
| NEWS FLASH .....                        |    |
| 本部だより .....                             | 10 |
| 部会だより .....                             | 14 |
| 支部だより .....                             | 17 |
| 官公庁だより .....                            | 19 |
| 月度活動状況 .....                            | 23 |
| 会員情報 .....                              | 26 |
| Net Work .....                          |    |
| vol.89 株式会社岡山熔接所 .....                  | 27 |
| VOICE STAGE 78 .....                    |    |
| 株式会社テンソー .....                          | 29 |
| 東リ株式会社 .....                            | 30 |
| そこが知りたい .....                           |    |
| 第35回「モーダルシフトの動向」は? .....                | 31 |
| 働くクルマたち .....                           |    |
| 第19回 高所作業車 .....                        | 33 |
| Coffee Break .....                      | 35 |
| 我が社の元気人 .....                           | 37 |
| DATA FLASH .....                        |    |
| 2017年4月～9月 会員生産状況概要 .....               | 38 |
| 編集後記 .....                              | 41 |

URL: [www.jabia.or.jp/](http://www.jabia.or.jp/) E-mail: [info@jabia.or.jp](mailto:info@jabia.or.jp)



積載量を  
もっと  
アップしたい。

ワンタッチ  
ハンドルキャッチ  
FA-813-Cシリーズ



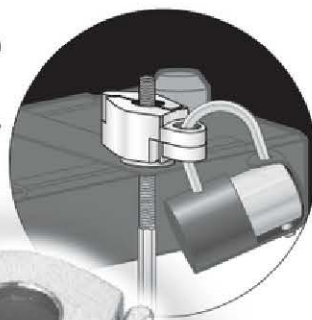
従来タイプより5mmスリムになって、  
厚さ29mmの薄型サイズに。  
突起を少なくし積載量の向上に貢献。  
ハンドル内にゴムを新たに採用し、  
操作時に気になる干渉音を軽減。

お客さまの声をカタチにしました。

急増する  
バッテリー盗難から  
大事な車両を  
守りたい。

ナットカバー  
C-1586シリーズ  
M8・M10用

ナットとボルトの  
取外しを防止!  
とってもカンタン  
効果絶大!!



特殊工具を使わずに  
ナットカバーの取付けが可能。  
南京錠(別売)で施解錠が可能。  
バッテリー交換時もスムーズに行えます。

ご注文・お問い合わせは、即日配達タキゲン 全国直販店へ

東京店 TEL:03-3492-2001 宇都宮支店 TEL:028-627-8001 京都支店 TEL:075-661-8001 韓国 TEL:82-2-326-1001  
大阪支店 TEL:06-6933-8001 浦和支店 TEL:048-855-3111 神戸支店 TEL:078-303-9001 上海 TEL:86-21-6288-4001  
名古屋支店 TEL:0568-75-5001 小松川支店 TEL:03-3683-8000 広島支店 TEL:082-885-2001 タイ TEL:66-2049-0990  
札幌支店 TEL:011-846-2001 八王子支店 TEL:042-646-3001 福岡支店 TEL:092-410-9888 台湾 TEL:886-2-2793-6001  
仙台支店 TEL:022-302-3101 厚木支店 TEL:046-230-4001 川崎販売 TEL:044-555-2001  
新潟支店 TEL:025-274-2500 沼津支店 TEL:055-929-1001

タキゲンはあなたの工場です 試作品・特注品をスグ創ります - 協力開発のタキゲン -

タキゲン 検索

0800-222-2004

## トレーラの未来予想図

トレーラ部会長 辻 和弘  
東邦車輛(株)・取締役社長



### はじめに

数年前、車で東京アクアラインを移動中に携帯電話が鳴りました。仕事の連絡を何気なくしながらカーナビで目的地の到着予定時間を見ているとふと気付きました。「ここは東京湾の中なのだ」と。海の底を高速道路が通り、携帯電話でいつでも話せ、GPSで自分の位置が瞬時にわかる。まさに私達が子供の頃に描いた未来予想図がそのまま現実になっていることに改めて驚きました。そして更に技術は進化し、自動運転が本格的に導入されるのも秒読みになってきました。時計型ウェアラブルに話しかけると目の前に自分の車がやって来るなんてこともはや夢ではありません。

### 高齢化による急激な変化

ここ1~2年で日本の高齢化についての記事を見かけたり、色々な場面での問題に直面することが非常に多くなったと感じます。既に日本では65歳以上の比率が25%を超え、しかも年々加速度的に上昇しています。一方、若者の車離れも進み少子化とあいまって新規免許取得者は減少の一途を辿っています。大型免許保有者の年代別分布を見れば65歳以上が全体の約30%を占めています。このような状況から今後10年で貨物輸送に従事するドライバーは20%程度減少すると予想されます。今年の初めから社会問題となっている宅配便だけでなく農作物や工業製品、建築資材など社会のあらゆるモノが物流という血管を介して体(全国)にスムーズに流れていなくなるのではと心配されます。また整備業界でも同じような傾向になりつつあり、今まで我々が直面してきた課題とは異なる問題が短時間で深刻化されていると言えるのではないのでしょうか。

### トレーラの果たす役割

物流におけるトレーラ化のメリットは大きく3点あると思います。まず1つ目は大量輸送です。トレーラ単体での積載物の量の多さに加え、最近ではフルトレーラの連結による更なる効率化も検討されています。規制緩和によ

る大型化も効率を更に高める効果となっています。2つ目はトラクタとの切り離しによるドライバーへの負担軽減です。単車と違いトレーラを切り離すことで積み下ろしの間のドライバーの拘束を軽減したり、リレー輸送などを可能にします。3つ目は製品寿命の長さです。エンジンの付かないトレーラは適切なメンテナンスの実施により20年以上の使用がなされています。ドライバー不足や労務問題を解消する一助となるのがまさにトレーラの活用だと言えるのではないのでしょうか。

### トレーラメーカーとしての責務

残念ながら乗用車等と違いトレーラを自動運転のトラクタで牽引するなどといった未来像は簡単に描けません。しかしながら高度化した現代社会では物流の停滞は人々の生活を脅かす重要な問題であり、また前段で申し上げたとおり社会の急激な変化に対しトレーラに対するニーズはまだ高まっていくと思われます。事実、2008年のリーマンショックで激減した毎年の新規登録台数を見ても年々増加し、今年もまた対前年で増えるものと思われます。

その様な状況の中、日本自動車車体工業会では今年、国土交通省で製作された「トレーラ火災の原因と防止について」と当会で製作した「トレーラ日常点検」「トレーラ定期点検整備のすすめ」の3つのビデオを1枚のDVDにまとめトレーラ運行にかかわる全ての方々への啓発活動を推進しています。製品を市場に出すだけでなく安全に、かつ安心して長く使っていただくための環境を作っていくのも我々の大切な使命だと考えています。トレーラ自体が大きく変わることは難しいかも知れません。しかしながらそれだけに時代の変化にどう対応し、先取りしていくのかを会員相互で話し合っている活動にこれからも取り組んでいく所存です。

今後とも会員の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げますと共に末筆ながら各社様の益々のご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

# 2017年度 秋季会員大会を開催

2017年度秋季会員大会が、第45回東京モーターショー2017に合わせて、10月27日、東京ビッグサイトに隣接する東京ベイ有明ワシントンホテル「アイリス」にて、開催され、151社316名の多くの会員が参加した。

網岡会長のあいさつに続いて、加藤副会長による乾杯の音頭で懇親会が始まった。終了後は東京モーターショーを視察した。



網岡会長

## ■ 会長挨拶

本年の通常総会で、皆様のご承認をいただき、車体工業会会長を務めております網岡でございます。

会員の皆様には、日頃から当会の活動にご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

また本日はご多用中にもかかわらず、このように多くの会員の方々にご出席をいただき、秋季会員大会を開催することができましたことに、心より感謝申し上げます。

さて、本年度4月から9月の当会会員生産台数累計は、110万2千台、前年比99.0%となっています。一方、カーメーカーからの委託生産車を除く当会特有車種を見ますと、バン型車の代替需要の継続や特装車の安定した需要により、9万1千台、前年比108%と前年を上回る状況です。乗用車は車種による偏りが見られますが、当会特有車種につきましては、下期の生産台数も前年並みで推移するのではないかと思います。

それでは、当会事業計画の進捗状況について少しお話させていただきます。

今年度は、

「安全対応活動の推進」

「環境対応自主取り組みの推進」

「中小企業支援活動の推進」

「活性化活動の継続推進」

を主要活動4項目と位置づけ活動しております。

まず第1項目の「安全対応活動の推進」につきましては、R51(騒音)の性能要件を満たす後付けマフラー装着車に関し、これまでも適正に対応していることを踏まえ、加速騒音試験成績書の免除を要望し、要望通り細目告示で改正される見通しとなりました。また、架装物の安全点検制度につきましては、会員の皆様、そして関係各位のご理解、ご協力を得ながら特装車のうち、民需車につきましては10月から新制度への対応を開始いたしました。

第2項目の「環境対応自主取り組みの推進」では、環境基準適合ラベル取得の推進に取り組んでおります。会員の皆様とのコミュニケーション、更に部会の協力も得ながら個社の課題解決にも取り組み、取得機種は現在、昨年度から3機種増の217機種となりました。そして、新環境基準適合ラベルにつきましては、昨年度から6機種増の148機種となりました。これは会員の皆様のご理解とご協力のお陰であり、お礼申し上げます。また、取得にあたり困っておられることがございましたら、会員の皆様とコミュニケーションを図りながら、支援を希望される会員の皆様には、一緒に課題解決に取り組んでおりますので、ご遠慮なく相談いただければと思います。なお、継続して取り組んでおります、CO<sub>2</sub>、VOC、産業廃棄物の削減とも、皆様の協力のおかげで目標を達成できる見込みでございます。

第3項目の「中小企業支援活動の推進」では、税制改正や規制改革などの各種要望を提出し、その実現に向け関係団体と連携し取り組んでおります。そして会員の皆様にご活用いただくため「中小企業施策利用ガイドブック」を送付させていただくとともに、当会ホームページへも掲載いたしました。また、安全衛生活動では会員の皆様に参考としていただける情報発信に引き続き取り組んでおります。

最後に「活性化活動の継続推進」では、来年4月に当会創立70周年を迎えるにあたり、70年史発行に向け取り組んでおります。そして、車体業界の認知度向上を図るためこれまで以上にタイムリーな情報発信に取り組んでおります。

以上のように、本年度事業計画は、概ね計画どおり進捗していると判断しております。

なお、事業計画では下期に完結する項目もございますので引き続き皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



加藤副会長による乾杯のご挨拶



さて、本日は「第45回東京モーターショー2017」の開会日であり、先程、私も開会式に出席してまいりました。今回のモーターショーは、「世界を、ここから動かそう。BEYOND THE MOTOR」をテーマに11月5日まで開催されます。このショーが国内需要喚起の更なるきっかけになることを願っております。

我々の車体部門は、東、西ホール屋内に2社出展し、東ホール屋外には11社13台の「動くくるま」合同展示場を設置しました。後ほど、会場で確認いただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、会員各位のご健勝とますますのご発展を祈念いたしまして、開会のご挨拶に代えさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。



東京モーターショー展示会場

## 講演会を開催

# 国内トラック市場の需要動向と 業界を取り巻く環境

## NEWS 特集

2017年10月12日、日本自動車会館「くるまプラザ」において、三菱ふそうトラック・バス製造株式会社の大熊健也氏を招いて、「国内トラック市場の需要動向と業界を取り巻く環境」のテーマで講演会を行った。本講演への関心は非常に高く、会場が満席となる66社96名の会員が参加した。



三菱ふそう  
トラック・バス製造株式会社  
マーケティング統括部  
大中型トラック商品計画部  
架装改造技術担当マネージャー

大熊 健也 氏

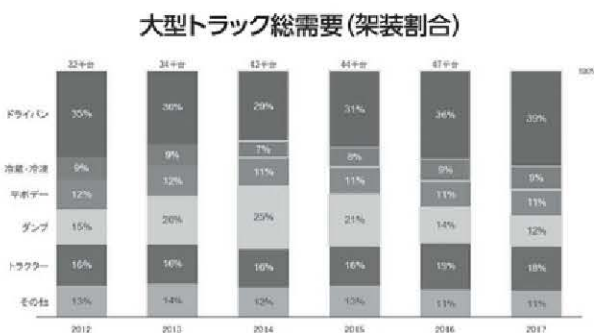
### 国内トラック市場の需要動向

2009年度以降、大型、中型、小型トラックともに、国内市場ではここ数年年率10%強の増加となっている。リーマンショック後の景気回復とも連動している。特に排ガス規制の関係で2003～06年度に販売したトラックが、15年近く経過したため、代替が促進されている。



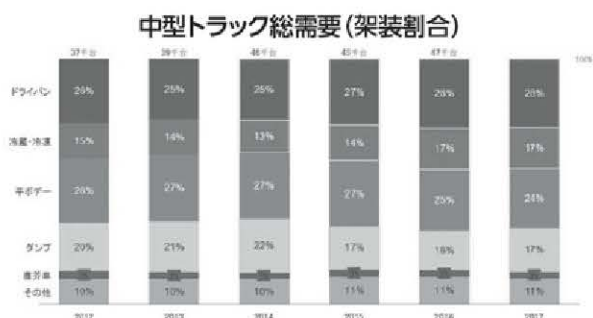
### 1. 大型トラックの需要動向

ここ数年は、増加傾向が続いているが、必ずしも楽観はできない。2014年度から景気回復に伴う物流の増加によりバン型車の割合が上がっているが、ダンプは相対的に下がっている。



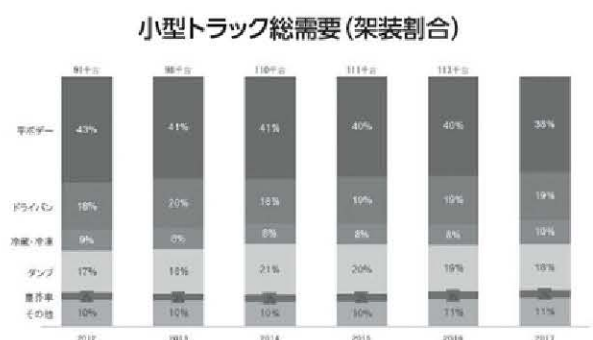
### 2. 中型トラックの需要動向

バン型車が増えて、ダンプの割合が減っているのは、大型トラックと同様の背景。



### 3. 小型トラックの需要動向

大型・中型トラックとは異なり、架装割合に大きな変化はない。しかし、通販業者の配送の増加、すなわち、B to BからB to Cへの転換、長距離輸送から短距離輸送への転換が図られている。



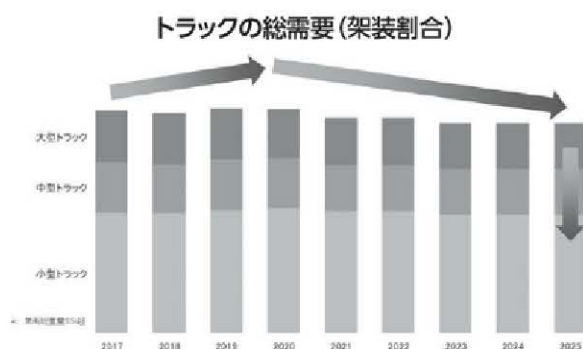
### 4. 今後の排ガス規制強化

ポストポスト新長期といった排ガス規制は既に始まっているが、技術的にこれ以上は困難というレベルに達しており、今後は「汚れた排ガスを極力出さない」方向に技術開発の方向性が変化している。このためOBD(排ガス自己診断装置)使用義務化による規制強化が始まってくる。

## 5. 今後の国内市場の景気見通しとトラックの需要予測

2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでは、外国人観光客の増加等もあり、ゆるやかな成長が見込まれる。しかし、2021年以降2025年にかけては少子高齢化が進み、経済成長が鈍化し人手不足、業界の再編・統廃合が顕在化してくる。2026年以降は、更に人口減少が進み、景気の更なる鈍化が考えられる。

このような国内市場の景気変動に伴い、2020年以降はトラック需要も緩やかな下降をたどると考えている。また総物流量の減少や戸別配送の増加により大型トラックから小型トラックへのシフトが大きく進展する。



## 今後のトラックに影響する変化

今後、高齢化社会の進展、自動運転社会の進展、代替燃料への転換といった3つの変化がトラックにも大きく影響してくる。

### 1. 本格的な高齢化社会の到来による影響

2015年、日本では人口に占める65歳以上の割合が27%となり、世界一の高齢国となっている。2060年には40%に達すると見られ、どの先進国も経験していない高齢化社会となる。プロドライバーのますますの不足による運転の未熟化、ドライバーの過重労働による事故増加の懸念、女性ドライバーの増加やドライバーの高齢化が想定される。このような限られた中で物流を支えていくためにドライバー負担をどうやって減らしていくかが課題である。

### 2. 自動運転社会への期待

ドライバーの疲労や負担を軽減し、事故を減らしていくために新世代AMTの拡大や居眠り監視装置や3次元オートクルーズといった新技術によるイーゼードライブの実現が求められる。また、自動ブレーキや車線はみ出し防止装置等、ぶつからない技術の普及が急がれている。この先に自動運転のための技術がある。既に他車や人にぶつからない・車線を認識する・他車を巻き込まない技術は実用化さ

れつつある。今後はGPSや地図データの活用により自動運転が可能となってくる。

しかし、自動運転の実現までにはまだ様々な課題が残されており、すぐに実用化される状況ではない。交通環境は複雑ですぐに自動運転には反応できない。このため、自動運転への対応は、当面高速道路等に限られる。

### 3. 代替燃料技術の需要の高まり

地球温暖化が進行する中、燃料電池、天然ガス、電気、バイオ燃料といった代替燃料の需要が高まっており、既に欧州メーカーはEV化に注力を始めている。

このための燃料供給のインフラ整備は、水素ステーションに比べ、EV用の送電網や充電器は経済性に優位である。また、バッテリーとモーターの組合せによる既に確立された技術で開発できるため、世界中のメーカーがEVに多くの投資を始めている。バッテリー価格も近年劇的に低下しており、今後は普及の足枷ではなくなる。

## EVトラックの普及に向けて

重量が重いEVトラックでは航続距離が弱みであるが、既に発表しているeCanterは1時間の充電で100km走れる。小口配送の需要が世界的に高まり、トラックの小型化は日本でも進んでいるため。小型のEVトラックは条件さえそろえば十分使用可能である。

また、トラックは架装されて初めて成り立つもので、架装可能なことがEVトラックの課題である。

2017年型量産電気トラック eCanter



架装を前提とした一つ目の課題は、“バッテリー、モーターを含む新たなシャシーレイアウト”、二つ目は「PTOIに変わる動力の取り出し、すなわち架装の電動化」で、今後開発を進めるにあたっては、架装メーカーとの協業が不可欠となってくる。EVトラック普及に向けて新たな架装ニーズや開発要求に対して架装メーカーとの協力関係の確立をよろしくお願いします。

# 第45回東京モーターショー2017に出展



日本自動車車体工業会は、10月27日～11月5日の10日間東京ビッグサイトで開催された「第45回東京モーターショー2017」に出展した。

「『働くくるま』が大集合!『働くくるま』で夢と幸せを あなたのそばまで」をテーマに、会員会社11社が13台の車両を、「働くくるま合同展示」として東ホール屋外展示場に出展した。

合同展示場ではナレーターが、LEDモニターを活用し、実況放送しながらに各車両の紹介と当会の活動紹介を行った。



日本トレックス(株) フラットパネルウイング  
セミトレーラ PANECT (参考出品)



株式会社矢野特殊自動車  
NEW STANDARD 35 Plus



株式会社浜名ワークス ダブル連結トラック



東邦車輛(株) スマートウイング®(参考出品)



八千代工業(株) 災害初期支援車 (参考出品)



# NEWS 特集

PRタワー壁面で、正会員192社の社名と主要製品の紹介、「安全・環境の取組み」から生まれた「JABIAマーク付ステッカー」の展示を行った。また、LEDモニターでの当会の紹介、「トレーラの安全啓発・点検整備ビデオ」の放映等を実施するとともに、当会モーターショー合同パンフレットの配布等を通じて、当会の認知度の向上並びに会員会社の紹介と働くくるまの紹介を行った。

そして、小学生以下のお子様を対象にした「スタンプラリー」を実施、アンケートに回答していただき「働くくるまミニカー」を進呈、連日、多くのお子様に参加し、働くくるまへの関心を高めた。

また、トヨタ車体、日産車体の2社は屋内にて、それぞれ単独出展し、コンセプトカーや特別仕様車の展示を行った。



株式会社花見台自動車 セフターローダH2  
(プロトタイプ)



日本フルハーフ株式会社  
オイルレス機構搭載  
次世代大型ウィングローフ車(参考出品)



日本フルハーフ株式会社  
電気式中型温度管理車(参考出品)



KYB株式会社 MR5030L  
ブルーム・テック体感スペース



極東開発工業株式会社  
フラトップ®  
ZeroII



極東開発工業株式会社  
プレスパック® (参考出品)



新明和工業株式会社 テレスコ式リヤダンプトラック 山田車体工業株式会社 Zフラップ9:1



# 2016年度会員企業の 売上高／従業員調査まとめ

## NEWS 特集

例年正会員に実施している売上高等に関する本年度調査結果がまとまったので概要を報告する。(2017年7月に調査、売上高は2017年3月に最も近い決算期、従業員数は2017年3月末現在)

### 1. 売上高・生産台数

- ・会員会社全体の車体製造に係る総売上高は5兆7,166億円となり、前年度比105%
- ・委託量産会社を除く非量産会社の総売上高は7,441億円で同110%、2009年度を底に増加傾向
- ・非量産車の生産台数は180,382台で、2010年度以降増加となり、同102%  
内訳では、バス・バン・トレーラが増加となり、特装・特種は減少

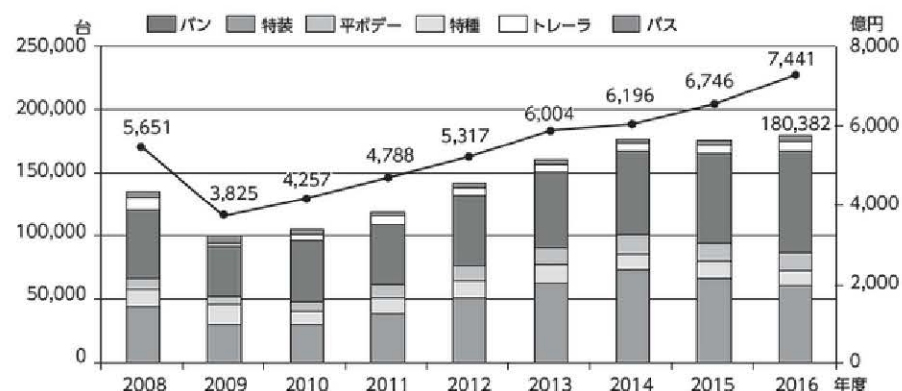
#### ■会員会社年度別売上高

|                   | 2008年  | 2009年  | 2010年  | 2011年  | 2012年  | 2013年  | 2014年  | 2015年  | 2016年  |
|-------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 調査会員数(社)          | 163    | 163    | 167    | 170    | 183    | 184    | 184    | 186    | 188    |
| 車体部門売上高合計(億円)     | 45,168 | 41,413 | 40,291 | 43,228 | 51,684 | 52,124 | 50,446 | 54,437 | 57,166 |
| 非量産車製造会社売上高合計(億円) | 5,651  | 3,825  | 4,257  | 4,788  | 5,317  | 6,004  | 6,196  | 6,746  | 7,441  |

#### ■非量産車会社売上高・ 生産台数年度別推移

左軸：棒グラフは生産台数(単位:台数)

右軸：折れ線グラフは売上高(単位:億円)



### 2. 従業員数

- ・車体部門の従業員総数は前年度比105%、内訳は正社員 同102%、期間工等 同113%
- ・非量産車製造会社の従業員総数は前年度比106%、内訳は正社員 同101%、期間工等 同127%  
一部の会員で期間工等が大幅に増加

#### ■従業員数

(人)

| 従業員数     | 2015年度 |        |        |        | 2016年度 |        |        |        | 前年度比 |      |      |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------|------|------|
|          | 計      | 正社員    | 期間工等   | 期間工等比率 | 計      | 正社員    | 期間工等   | 期間工等比率 | 計    | 正社員  | 期間工等 |
| 車体部門     | 53,821 | 42,681 | 11,140 | 21%    | 56,261 | 43,722 | 12,539 | 22%    | 105% | 102% | 113% |
| 非量産車製造会社 | 17,189 | 13,798 | 3,391  | 20%    | 18,268 | 13,960 | 4,308  | 24%    | 106% | 101% | 127% |

#### ■従業員数推移 (非量産車製造会社)

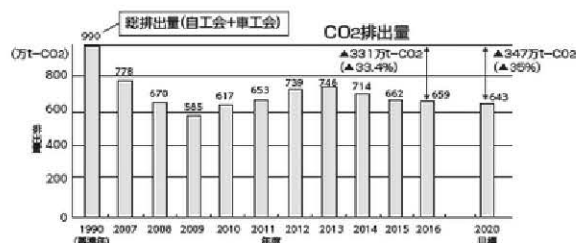


### ■環境自主取組みのフォローアップ結果

#### 1. CO<sub>2</sub>排出量削減

地球温暖化対策のCO<sub>2</sub>削減活動は、2008年度から日本自動車工業会と一体となった活動を実施しており、2017年度調査結果(2016年度実績)は以下の通り。

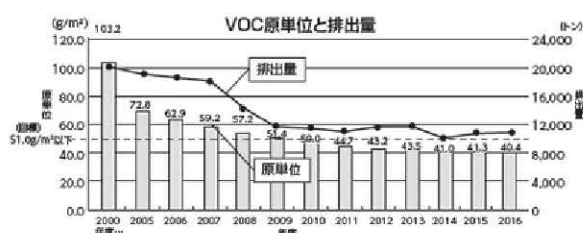
- ・ 2016年度の両工業会合算排出量は、2020年度目標値643万t-CO<sub>2</sub>(1990年度比▲35%)に対して、659万t-CO<sub>2</sub>(1990年度比▲33.4%)で目標比 達成率 95.4%
- ・ 2020年度に向けて、今後も更なる削減努力を継続



#### 2. VOC排出量削減

塗装工程でのVOC削減の2017年度調査結果(2016年度実績)は以下の通り。

- ・ 2016年度排出原単位は40.4g/m<sup>2</sup>と目標(51.0g/m<sup>2</sup>)を達成
- ・ サブ目標である排出量低減率(基準2000年度比▲30%削減)についても▲47.6%減で目標達成
- ・ 各社の地道な工法改善(適正な吹付け)、材料見直し(低VOCシンナー化)等により低減が図れた



### ■日本ELVリサイクル機構／日本トラックリファインパーツ協会による工場見学会を実施

環境委員会架装物リサイクル分科会(分科会長・新俊俊彦・極東開発工業(株)品質保証部長)では、日本自動車工業会と合同で、11月27日、解体・3Rの団体である日本ELVリサイクル機構と日本トラックリファインパーツ協会の24社30名が参加し、小平産業(株)(栃木県小山市)とUDトラック

ス(株)本社・上尾工場(埼玉県上尾市)を見学した。

小平産業(株)では機械工場と中型工場を見学。非常に硬度の高いスウェーデン鋼をダンプの荷台等に加工する工程や架装部品の電着塗装工程が参加者の関心を集めていた。

また、UDトラックス(株)では大型・中型トラックの混流生産を可能とした生産工程と気圧を上げてゴミを入りにくくした専用室でのエンジン組立工程を見学。参加者からは大変有意義であったとの声が多く聞かれた。



小平産業



UDトラックス

### ■環境委員会工場見学会を実施

環境委員会(委員長・木村昌平・日産車体(株)社長)では、11月30日、6社13名が参加し、岐阜車体工業株式会社(岐阜県各務原市)の見学会を実施した。

同社では、2017年1月の新型コースターの生産移管に伴う工場拡張の際、環境面を含めた周辺地域の方々との調整に苦労したとの説明があり、参加者にとっても大変参考となった。また、コースター生産工場では車体工程、組立工程を見学、ライン横流し(車両を横向きにして流すこと)での作業性向上や「からくり改善」の導入等を組みこなわせることで限られた工場面積の有効活用を図っていることにも高い関心が示され、有意義なものとなった。



岐阜車体工業

## ■「2018年度税制改正に関する要望書」を提出

当工業会では、自動車関連税制並びに中小企業関連税制について、以下の通り、税制改正に関する要望をまとめ、政府・与党に提出した。

### 【要望理由】

- ・昨年度の国内中型貨物車の販売は98千台と7年連続の増加で、リーマンショック前の2007年度と同等のレベルとなった。
- ・長期的には社会環境変化により国内輸送量の増加を見込むことは難しく、国内商用車需要は漸減の見込みであり、車体メーカーの経営状況の厳しさは続くと考えられる。
- ・特に地場産業として地域に密着したトラック製造などの中小車体メーカーへの経営支援策の継続、充実が必要と考える。
- ・当工業会は中小会員が多くを占めるため、中小企業税制についても、中小企業法人税軽減税率の拡大、税法上の中小企業定義の見直しの早期実現が必要である。

### 【要望項目】

#### I. 自動車関連税制

～複雑で過重な自動車関係諸税の負担軽減・簡素化～

##### 1. 2016年度税制改正大綱を踏まえた車体課税の負担軽減・簡素化

###### ① 自動車税・軽自動車税

- ・自動車税は国際的に適正である軽自動車税の水準に見直し
- ・環境性能割の課税体系を踏まえた上で基準見直し
- ・自動車税の初年度月割課税の廃止

###### ② 自動車重量税

- ・将来的な廃止を目指し、まずは「当面の間税率」の廃止

###### ③ 自動車取得税

- ・消費税率10%引き上げ時(2019年10月)の確実な廃止

###### ④ 環境性能割

- ・2019年度(平成31年度)税制改正で税率区分の見直し

##### 2. 不合理な燃料課税の見直し

##### 3. 財源確保のための自動車関係諸税の増税及び新税創設反対

#### II. 中小企業税制

##### 1. 中小企業法人税 軽減税率の拡大

未だに企業経営が厳しい状況であるため、中小企業

を対象とした軽減税率の更なる低減等を要望する。

##### ① 年所得800万円以下の部分:

- ・法人実効税率低減までの間、軽減税率特例(15%)の継続
- ・法人実効税率低減時、現在と同程度以上の特例の設定

##### ② 年所得800万円超の部分:

- ・法人実効税率低減時、軽減税率特例の設定

#### 2. 税法上の中小企業定義の見直し

中小企業基本法での中小企業の定義は「資本金3億円以下(製造業)」に引き上げられているが、法人税制上では依然として「1億円以下」である。

中小企業関連税制の活用拡大を図るために、法人税制上の資本金基準を「3億円以下」に引き上げることを要望する。

## ■自動車関係諸税の簡素化・負担軽減に関する活動

当会も構成会員である自動車税制改革フォーラムでは、JAF(日本自動車連盟)をはじめとした自動車関係21団体と共に「みんなで考えよう!クルマの税金～重すぎる税負担を軽減し、複雑で不合理な仕組みが見直されるよう、自動車ユーザーの声を結集しましょう。」チラシを配布。更に全国各地でユーザー向けイベントを実施している。

<内容>

ご存知でしたか?

自動車には……

- ① 9種類・8兆円もの税金が課せられています。
- ② 国際的にみても最大34倍の極めて重い負担になっています。
- ③ 不合理な「当分の間税率」や「Tax on Tax」といった仕組みが続いています。



## ■「中小会員ネットワーク強化WG」で会員各社を訪問

中小会員ネットワーク強化WG(リーダー・矢野彰一・(株)矢野特殊自動車社長)では、11月8日、パン部会会員(株)永光自動車工業(千葉市)を訪問し、同社の見学会を実施、本年度のWGのテーマである「人材育成(技能伝承含む)・採用」と「後継者育成支援」を中心に同社での取り組みについ

でも意見交換を実施した。

(株)永光自動車工業の木俣社長が社長に就任してから10年間で、新たに始めた特種車事業を拡大し、更には地元の千葉大学等と産学連携で開始した科学の力で当選する選挙カーの開発や小学校、保育園で使われる次世代型遊具の開発などの事業分野の拡大に関する内容は、参加者にとっても大きな感銘を受けた。今回の訪問で、中小会員にとって直面している課題についても参考となることが多く得られた。これまで会員各社を訪問し、意見交換による成果を、本年度末に報告書にまとめる予定である。



永光自動車工業：  
次世代型遊具の試作品を視察

## ■支部連絡会を開催

支部連絡会（議長・須河進一・須河車体(株)社長）では、9月15日、中部支部長会社である(株)東海特装車において2017年度第1回支部連絡会を開催した。また連絡会に先立ち同社の工場見学を行った。

### 1. 工場見学

(株)東海特装車は、車いす仕様車などの福祉車両や冷凍車・保冷車、現金輸送車などの特殊用途車などを生産している。当日は、最近起きた労働災害を事例に、要因分析・改善対策・横展開などの安全に対する取組みについて説明を受けた。また「全員参加の改善活動」をスローガンに「7つのムダ」を改善の視点に取り組んでいる事例の紹介を受けた。改善内容の説明だけでなく、改善前&改善後の作業内容を実演していただき、より理解しやすく、また高い目標をかかげ、保証するための条件は何かを明確にして対策していくプロセスには感心した。

### 2. 支部連絡会

今年度の事業計画である「支部活動の活性化を目的とした良いとこ取り活動」について報告・質疑・共有を図り、自支部活動の活性化につなげていく参考となった。また最近の環境下での労務管理の難しさや、新規検査での困りごとなど活発な意見交換ができた有益な連絡会であった。



東海特装車

## ■2017年度車体工業会 PL保険加入状況と2016年度事故事例について

毎年10月がPL保険年度の更新時期である。2017年度の加入状況と2016年度の事故事例は次のとおりとなった。

### 1. 2017年度車体工業会PL保険加入状況(2017年10月1日現在)

#### (1) 加入会員数と単年度障害率(過去4年間)

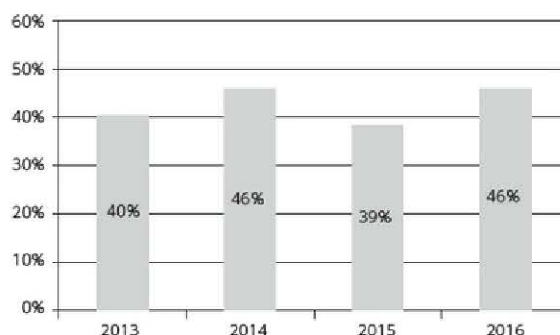
- ・ 2017年度の加入会員数は、前年度比2社増加の98社
- ・ 2016年度の保険支払対象事故件数4件、支払い保険金414万円発生し、損害率は33%

| 年度                      | 保険料<br>(万円)A | 支払保険金<br>(万円)B | 損害率<br>(%)C | 支払対象<br>事故件数 | 加入会員<br>数 |
|-------------------------|--------------|----------------|-------------|--------------|-----------|
| 2014年度<br>(14.10~15.09) | 1,308        | 1,374          | 105         | 8            | 94        |
| 2015年度<br>(15.10~16.09) | 1,299        | 6              | 0.5         | 1            | 95        |
| 2016年度<br>(16.10~17.09) | 1,256        | 414            | 33          | 4            | 96        |
| 2017年度<br>(17.10~18.09) | 1,285        | -              | -           | -            | 98        |

\*損害率C=支払保険金額B÷保険料A×100%

#### (2) 3年間移動平均の損害率変化

- ・ 保険料は固定ではなく、過去3年間の単年度損害率の平均(移動平均損害率)を基に算出
- ・ 2014~2016年度の単年度損害率から算出した2016年度移動平均損害率は46%
- ・ この結果、2017年度の保険料の割増引係数は昨年と同じ0%



### 2. 2016年度PL事故事例

- (1) 左側リヤステップパンパの左側ステーの溶接部が断裂し脱落  
原因：溶接不良
- (2) キャブ後面のメインハーネスショートによるエンジン回転数上がらず  
原因：鳥居とハーネスの隙間小

## ■労政合同勉強会を開催

人事労務研究会は、11月16日に、日本自動車工業会、日本自動車部品工業会と合同で、自工会にて第28回労政合同勉強会を開催した。

最初に、サントリーホールディング(株)ヒューマンリソース本部人事部の千大輔部長による「65歳定年制度導入から5年」をテーマとした講演があった。60歳以上の同社の社員数が2019年には2016年比で約300名増加するという予測のもと、他社に先行して2013年4月より65歳定年制を導入。元気なシニア層のより一層の活躍を期待するとともに、年金空白部分の生活を充実できるよう、年金給付率の引き下げを実施、退職金や年金の支給開始日を65歳へ変更したとの説明があった。

また、トヨタ自動車(株)より生産現場従業員の再雇用制度導入について、本田技研工業(株)より定年延長導入についてそれぞれ事例紹介があった。そして、「高齢者雇用の取り組み」に関して活発な意見交換も行われた。



## 部会だより

NEWS FLASH

### 特装部会

#### ■サービス委員会工場見学会を実施

サービス委員会(委員長・石田和雄・新明和オートエンジニアリング(株)サービス本部技術情報部長)では、11月10～11日、6社10名が参加し、(株)タダノの志度工場(香川県さぬき市)及び高松工場(香川県高松市)の工場見学会を実施した。

志度工場では、最大のもので吊上げ荷重70t・地上揚程45mに達する主力機種のラフテレーンクレーンの製造工程を、また高松工場では最大のものでデッキ積載荷重360kg・最大地上高40mに達する主力機種である高所作業車の製造工程を、それぞれをビデオと実際の製造現場に見学することで、より多くの参考事例を実際に確認することができ、大変参考になる見学会となった。特に、1枚の鉄板をブームに加工する高い溶接技術、人材育成のための設備、全世界で活躍する同社の製品の稼動状況・位置情報・故障情報を一元的に管理するハローネットについては、参加者一同高い関心を示していた。



タダノ

## 「交通安全。アクション2017お台場」を開催

家族で一緒に交通安全の大切さやルールを、子供から高齢者まで家族で幅広く学ぶことができる体験型交通安全啓発イベント「交通安全。アクション2017お台場」が11月18日～19日の2日間、江東区青海のパレットタウン内「メガウェブ」で開催され、約2万人が来場した。日本自動車会議所が主催、国土交通省、警察庁、警視庁等が後援し、自動車関係48団体・企業などが参画し、当車体工業会も従来から協力を続けている。

開催テーマは「家族で広げよう交通安全」で楽しく学べる体験型ブースやステージイベントが用意され、多くの来場者で賑わった。



## ■清掃車小委員会工場見学会を実施

清掃車小委員会(座長・山田大二・(株)モリタエコノス技術開発部技術課長)では、11月27日、4社4名が参加し、出光興産(株)千葉事業所(千葉県市原市)の見学を実施した。

同事業所は同社が4か所所有する基幹製油所の一つであり、唯一潤滑油の生産を行っており、今回は原油が潤滑油として精製された後、3種類の容器(40缶、200ℓタンク、2000ℓタンク)に充填されるまでの工程を見学するとともに、その品質管理体制について学ぶことができた。

参加者は合理化された生産ライン、24時間体制の監視システム、品質を裏付けする各種試験態勢に高い興味を示すなど、大変参考となった。



出光興産千葉事業所

## 特種部会

### ■工場見学会を実施

特種部会(部会長・古庄忠信・(株)イズミ車体製作所会長)では、9月29日～30日、部会員19社27名が参加し、(資)中北車体工作所(新潟県新潟市)と(株)北村製作所(新潟県新潟市)の工場見学を実施した。

(資)中北車体工作所では、特種車の架装工程と路線バス等のメンテナンスを見学。特種車架装とバスメンテナンスの2本柱による事業展開による年間での業務の平準化等の取り組みは、業務不可の集中の課題を持った部会員には大変参考となった。また、木工作業やシートの張り替えについても内製化して多様化するニーズに応えておられることや雪国ならではの冬季の防錆処理等にも関心が集まった。



中北車体工作所

(株)北村製作所では、コンテナづくりのノウハウを活かしたリフトカーやワーキングバンの工程を見学。特に効率的、機能的で様々な工夫がされている生産現場や、品質、環境への徹底した取り組みについて参加者の参考になる面が多かった。また、電着塗装設備など新技術の導入、そして通信シェルターや産業用洗浄システムなど幅広い事業展開についても高い関心が寄せられた。



北村製作所

### ■工場見学会を実施

特種部会(部会長・古庄忠信・(株)イズミ車体製作所会長)では、11月17日～18日、部会員14社28名が参加し、大日本塗料(株)小牧工場(愛知県小牧市)とトヨタテクノクラフト(株)名古屋工場(愛知県東海市)の工場見学を実施した。

大日本塗料(株)小牧工場では、自動車等に使用される油性塗料の製造工程を見学、続いて、自動車のカラーデザインのトレンドについて塗色見本を前に説明を受けた。自動車の色の流行や今後の予測について関心が集まった。

トヨタテクノクラフト(株)名古屋工場では、本年度から稼働開始した新工場の高規格救急車の製造工程を見学。多品種少量生産にトヨタ生産方式を取り入れた効率的な生産がおおいに参考になったとの声が多く聞かれた。また、技能伝承のため、従業員がレストアを行った55年前のマイクロバスの出来栄えに参加者一同感心していた。

参加者にとって今後の事業の参考になるとともに、モノづくりに対する関心を高める有意義な見学会となった。



大日本塗料小牧工場カラーセンター



トヨタテクノクラフト名古屋工場

## トラック部会

### ■工場見学会を実施

トラック部会(部会長・田村元・(株)浜名ワークス社長)では資材部会(部会長・小澤賢記・ゴールドキング(株)社長)と合同で、11月10日、日本トレクス(株)本社事業所・音羽事業所(愛知県豊川市)の見学会を実施した。

本見学会は、今後両部会で部品や資材の共同検討等を行うための交流を図るため合同で実施、39社57名と多くの会員が参加した。

本社事業所では主力のトレーラ、ウイングバンの組立工程を見学。継ぎ板構造で断熱性能を大きく向上させた新開発の冷凍車用フラットパネルの製造工程では、このパネルについて参加者から高い関心が寄せられた。

また、音羽事業所では中型ウイングバンの組立工程を見学。ここでは架装のための加工作業は協力企業で実施し、組立に特化している。



日本トレクス音羽事業所

更に、本事業所ではウイング部分の組立を2階で行った後、1階に降ろして組み付け完成させる工程としており、建屋の特徴を活かした高率的な配置としており、参加者にとっても参考となった。

見学と情報交換会を通して、トラックと資材両部会の会員の交流が活発に行なわれ、今後の共同検討等にあたっての第一歩となり、有意義な見学会となった。

## バン部会

### ■工場見学会を実施

バン部会(部会長・上野晃嗣・日本フルハーフ(株)顧問)では、11月17日、14社52名が参加し(株)パプコ本社相模工場(神奈川県海老名市)と三菱ふそうトラック・バス(株)川崎製作所(同県川崎市)の見学を実施した。

(株)パプコではウイングバン車の組立、トラック荷台の製造、及びダブルキャブの製造工程を見学。主力は大型ウイングバンの架装であるが、トラック荷台など多品種の製造工程の効率を高めるため、工程の半分を協力企業が担当している。この製造の分担について参加者が関心を示していた。

三菱ふそうトラック・バス(株)ではトラックのシャシ組立を見学。クリーンな生産ラインで中・小型車ラインはサイクルタイム優先でシャシ反転をしない工程をなっていた。また、部品やシャシの搬送はAGV(自動搬送装置)を多用し省力化を図っていた。

今回はシャシメーカーの生産ラインも見学でき、大変有意義な体験になったとの声が多く聞かれた。



三菱ふそうトラック・バス

## トレーラ部会

### ■工場見学会を実施

トレーラ部会(部会長・辻和弘・東邦車輛(株)社長)では、11月17日に部会員5社15名が参加し、コベルコ建機(株)広島事業所(広島市)と(株)ユーシン広島工場(呉市)の工場見学を実施した。

コベルコ建機(株)は1930年に国産大型電気ショベル第1号を生産されて以来、挑戦と進化を繰り返して時代のニーズに応える数々の製品を生み出され新たなソリューションを提供し続けられている。

(株)ユーシンは自動車部品の製造に始まり、その業種を産業機械部門、住宅機器部品へ拡大され、刻々と変化する市場ニーズに応え発展され、両社共に製造工程見学会後の質疑応答では活

発な意見交換がされ、日頃見られない製造工程に一同感心していた。



コベルコ建機広島事業所

## バス部会

### ■塗装技術者向け勉強会を開催

塗装デザイン研究会(委員長・手塚学・ジェイ・バス(株)製造部塗装課課長)では、11月21日に日本ペイント(株)東京事業所において「塗装技術者向け勉強会」を開催した。

本勉強会は少量多品種の塗装をしている会員に役立つ情報を提供する場として、2009年から実施しており、バス

部会以外からの会員も含め、25社43名が参加した。

まず、メタリック塗装の修正方法として、メタリック塗色のボカシ際黒ずみ対策、クリアーボカシ方法や補修作業工程上のポイントなどの基礎について説明があった。引き続き、説明のあった工程のデモンストレーションを見学した。勉強会のテーマは、昨年度の塗装勉強会参加者のニーズを踏まえたことや、説明とデモンストレーションの内容につながりを持たせていることで理解しやすく、非常に充実した技術情報を得るとの意見が参加者から多く聞かれ、大変有意義な勉強会となった。



日本ペイント東京事業所

## 小型部会

### ■全日本学生フォーミュラ大会視察

技術委員会(委員長・大森幸男・トヨタ自動車東日本(株)第1ボデー設計部副部長)では、9月8日、静岡県小笠山総合運動公園(エコパ)で行われた自動車技術会主催の全日本学生フォーミュラ大会を視察した。

当日は、エンデュランス(約20kmを走行し、走行性能、耐久性、燃費を競う)や小型部会会員各社の紹介ブースを視察した。約100大学の企画・設計・製作と一連



フォーミュラカー走行風景

の活動から生まれたフォーミュラカーの個性ある走りを見学したが、走行途中リタイヤする車も多く、タイムだけでなく耐久信頼性などバランスのとれた開発が必要であることを感じた。また会員各社の紹介ブースには、車好きの学生が多数集っていた。また、フォーミュラに参加する学生の多



会員各社の紹介ブース

くが自動車関連メーカーへの就職が決まっており、リクルートとしての期待が持てた。

## 支部だより

NEWS+FLASH

### 関東支部

#### ■関東支部役員会・見学会実施

関東支部(支部長・上野晃嗣・日本フルハーフ(株)顧問)では、9月22日、支部長、都県会長、役員の7名が参加し、役員会及び見学会を実施した。

役員会では、上期の主な活動である不正改造車排除運動や上期役員会のテーマに関する意見交換及び車体業界・当会の最近の動きなどの情報交換を行った。

見学会では、栃木県会長会社の小平産業(株)の工場見学を行った。小平産業(株)は1938年に設立、今年で創立79年を迎える老舗企業であり、風格のある事務所建物からその歴史の重さを感じた。あおりの材料には、加工が難しいスウェーデン鋼板を使用、更に曲面あおりを採用するなど、技術力の高さに感心した。また当日は、フルカスタムメイドのダンプトレーラなどの全生産工程を見ることができ、参加者にとって大変有意義な見学会であった。



小平産業

### 中部支部

#### ■秋季研修会を実施

中部支部(支部長・景井啓之・(株)東海特装車社長)は、10月6日～7日、支部会員13社13名が参加し、トヨタ自動車東日本(株)大衡工場・大和工場(宮城県黒川郡)で研修会を実施した。

トヨタグループの中でも最新鋭の生産設備とそこに働く従業員の方々の多くのからくり改善が融合した素晴らしい工場を実感した。

からくり改善は参加各社でも応用できる発想であり大変有意義な研修との声が寄せられた。また、東北地方の



トヨタ自動車東日本大衡工場

リーダー企業として、産業界の育成にとどまらず、人材育成・地域社会への貢献に対しても感銘を受けた。

## 近畿支部

### ■研修会を実施

近畿支部(支部長・須河進一・須河車体(株)社長)は、11月22～23日、13社16名が参加し、研修会を実施、日本トレクス(株)本社事業所・音羽事業所(愛知県豊川市)を見学した。

工場では、大手架装メーカーならではの高い品質を保証するための生産管理システムや品質管理体制は参加者にとって非常に参考になった。また、多くの受注を抱えていることもあり、製造工程での改善も多く実施されており、参加者の見識や視野を向上することができ、有意義な研修会となった。



日本トレクス音羽事業所

## 九州支部

### ■「異業種工場見学会」及び「秋季研修会」を実施

九州支部(支部長・矢野彰一・(株)矢野特殊自動車社長)では、9月12日、17社37名が参加し、(株)安川電機本社工場(福岡県北九州市)を訪問、異業種工場見学会を実施した。産業用ロボットトップメーカーの最先端の産業用ロボット生産工程を見学、その飛躍的進化に参加者一同感嘆した。

また、10月26日～27日、15社21名が参加し、「秋季研修会」を開催した。本研修会では、新明和工業(株)特装車事業部佐野工場(栃木県佐野市)で、多品種を効率的に生産している工程を見学、モノづくりへのこだわりを感じることができた。更に東京モーターショーの視察も実施し、異業種見学会とともに参加者の知見を高められ、大変有意義であった。



安川電機 みらい館

## 官公庁だより

NEWS FLASH

### 保安基準等の一部改正について

国土交通省

#### 1. 「改造自動車に係る新規検査の際に提出する書面について」の一部改正について

##### 【改正概要】

WLTP(国際調和排出ガス・燃費試験法(Worldwide harmonized Light vehicles Test Procedure)適合車について、重量アップとなる架装等を行った場合の新規検査の際に提出する排出ガス試験結果成績表の取扱いを定めた。

【施行日】 2017年8月30日

#### 2. トラック排気管の向きに係る自主対応の廃止について

##### 【概要】

本年6月22日に改正された保安基準の細目告示の改正を受け、自工会が1989年(平成元年)に定めた排気管の向きに関する自主基準(トラックの排気管の開口部向きの対応について)を撤廃した。

なお、本自主基準は高速道路等の料金所職員の健康被害を軽減するため、排気管開口部が右に向いているものについて、原則として後向きにするなどとする改善策。

【施行日】 2017年9月5日

#### 3. 装置型式指定規則等の一部改正について

##### 【改正概要】

協定規則の名称変更に伴い、装置型式指定規則及び保安基準の細目告示について、所用の整理を行ったもの。なお、新たな協定規則の名称は以下のとおり。

新協定規則名称⇒「車両並びに車両への取付け又は車両における使用が可能な装置及び部品に係る調和された技術上の国際連合の諸規則の採択並びにこれらの国際連合の諸規則に基づいて行われる認定の相互承認のための条件に関する協定」

【施行日】 2017年9月14日

#### 4. 装置型式指定規則等の一部改正について

##### 【改正概要】

協定規則の名称変更に伴い、「自動車及び原動機付自転車駆動用リチウムイオン蓄電池の取り扱いについて(平成29年3月6日 国自技第254号)」について、所用の整理を行った。

【施行日】 2017年9月14日

## 5. 保安基準の細目告示の一部改正について

### 【改正概要】

不正な原動機制御等を防止するため、内燃機関を燃料とする自動車(二輪車、小型特殊除く)の排出ガス低減装置について、不正制御に当たる具体的な事例(以下の3例)を定めた。

- ① 排出ガス試験時特有の事象を基に試験中かどうかを検知して作動するもの。
- ② 排出ガス試験を行う場所にあるかどうかを検知して作動するもの。
- ③ 排出ガス試験の所要時間と関連する時間の経過を検知して作動するもの。

【施行日】 2017年9月20日

## 6. 装置型式指定規則等の一部改正について

### 【改正概要】

#### (1) 装置型式指定規則

- ① 特定装置に車両接近通報装置を追加した。

#### (2) 保安基準の細目告示

- ① 幼児専用車の非常口について、その付近に保護者用座席の設置を義務付けた。
- ② 排気管の配置について、排気ガス等の車室内侵入防止に関する規定を追加した。
- ③ かじ取装置、灯火器等について、協定規則改訂に伴う所要の整理を行った。

#### (3) 道路運送車両法関係手数料規則

- ① 車両接近通報装置に係る試験料金を定めた。

【公布・施行日】 2017年10月10日

## 7. 装置型式指定規則等の一部改正について

### 【改正概要】

燃費性能の評価の申請について、道路運送車両法第75条第1項の指定時に加え、自動車型式指定規則第6条第1項の表第2号の届出と同時に申請を行えるようにした。

【改正日】 2017年10月23日

## 8. 自動車型式認証実施要領及び輸入自動車特別取扱い制度の一部改正について

### 【改正概要】

自動車の車台番号及び原動機型式の打刻届出について、1枚の様式で複数型式の届出ができるよう合理化を図った。

【改正日】 2017年11月8日

## 9. ホイール・ボルト折損等による大型自動車等の車輪脱落事故の防止について

### 【概要】

#### (1) 背景

- ① 2016年度の大型自動車(GVW8t以上の貨物車、乗車定員30人以上のバス)のホイール・ボルト折損等による車輪脱落事故が56件(人身事故はこのうち3件)となり、前年度と比べ15件(36.6%)増加している。
- ② これらの事故原因は、ホイール・ナットの不適切な締付けや、ホイール・ボルト及びナットの劣化が疑われるものが多い。
- ③ 更に、2017年10月18日、岡山県の中国自動車道で大型トラックのスペアタイヤが脱落し、これに乗り上げた大型トレーラが横転し、2名が死亡する事故が発生した。

#### (2) 再発防止対策

- ① 全ト協及び日本バス協に対し、ホイールに適合するナットの使用についての周知・徹底を要請した。併せて、スペアタイヤを車両に固定する構造・装置の腐食や緩みの点検について要請した。
- ② 日整連及び全国タイヤ商工協同組合に対し、車輪脱着作業における規定トルクでの確実な締付け、ホイールに適合するナットの使用についての周知・徹底を要請した。併せて、大型自動車の使用者等に対し、スペアタイヤを車両に固定する構造・装置の腐食や緩みの点検を促すよう要請した。

【通達発出日】 2017年11月14日

## 審査事務規程の一部改正について(第13次)

### 自動車機構

### 【改正概要】

#### (1) 保安基準の細目告示の改正に伴う改正

- ① 排気管について、車室内への排気ガスの侵入防止対策に関する規定を追加した。
- ② また、排気管の車体からの突出量を制限した。

#### (2) 道路運送車両法施行規則の改正に伴う改正

- ① 書面審査の扱いを明確化した。

#### (3) 構成の見直し

- ① 小型特殊自動車及び検査対象外軽自動車に関する規定を削除した。
- ② 第8章の規程(使用過程車の規程(改造等を行っていない部分に限る。))については、劣化・摩耗の確認等に限定した。

#### (4) 新規検査等の提出書面関係(別添2)

- ① 附則の構成見直し
- ② 記載方法の明確化、一部様式の変更

③ 事前審査管理番号を有する自動車の活用方法の明確化

④ 細目告示別添114対象トラクタについて、事前書面審査の対象から除外した。

(5) 特種用途自動車に適用する基準の明確化

(6) その他

① 審査方法の明確化、書きぶりの適正化

【改正日】 2017年10月10日

## 審査事務規程の一部改正について(第14次)

### 自動車機構

#### 【改正概要】

(1) TRIASの一部改正

保安基準の細目告示の改正等に対応するため、以下のTRIASを改正する。

① 乗用自動車用空気入タイヤ試験 (TRIAS 09-R030-01)

② トラック、バス及びトレーラ用空気入タイヤ試験 (TRIAS 09-R054-01)

③ 二輪用空気入タイヤ試験 (TRIAS 09-R075-01)

④ タイヤの車外騒音・ウエット路面上での摩擦力・転がり抵抗に係る試験 (TRIAS 09-R117-01)

⑤ かじ取装置試験 (TRIAS 11-R079-02)

⑥ 車両接近通報装置試験 (TRIAS 43(7)-R138-02)

(2) その他

① 外国の試験機関の追加

② 車両接近通報装置試験 (TRIAS43(7)-R138-02)の試験手数料を187,000円と定めた。

【改正・施行日】 2017年11月22日

## 平成28年工場立地動向調査結果(確報)を公表

### 経済産業省・中小企業庁

<速報(17年3月)との相違点>

2017年3月31日に公表した「平成28年(1月～12月期)工場立地動向調査結果(速報)」と今回取りまとめた確報との主な相違点は次のとおり。

・ 工場立地件数(速報)1,028件→(確報)1,026件

・ 工場立地面積(速報)1,298ha→(確報)1,297ha

※ 件数、面積共に、製造業、ガス業、熱供給業、電気業の合計

(修正理由)

速報で対象とした事業者のうち、製造業に該当しないこ

とが判明したため調査対象外とし確報の数値から外した等による。

【公表日】 2017年9月20日

<詳細は以下を参照>

<http://www.meti.go.jp/press/2017/09/20170920004/20170920004.html>



## 第149回中小企業景況調査(2017年7-9月期)の結果

### 経済産業省・中小企業庁

「中小企業景況調査」は、中小企業基盤整備機構が、全国の中小企業約1万9千社を対象に、商工会・商工会議所の経営指導員、中小企業団体中央会の調査員の協力を得て、四半期毎に実施している調査である。

この度、中小企業の業況判断、売上額及び経常利益等の2017年7-9月期の実績(DI)及び2017年10-12月期の見通し(DI)について、中小企業庁と同機構が共同で結果を取りまとめた。

【公表日】 2017年9月28日

<詳細は以下を参照>

<http://www.meti.go.jp/press/2017/09/20170928001/20170928001.html>



## 消費税の転嫁状況に関するモニタリング調査(8月調査)の調査結果を公表

### 経済産業省

経済産業省では、2014年4月の消費税率引上げを踏まえ、転嫁状況を定期的にモニタリングするため、転嫁状況に関する事業者へのアンケート調査(モニタリング調査)を2014年4月から実施している。

今般、2017年「8月調査」の調査結果を取りまとめたので公表する。

調査結果は、「全て転嫁できている」と回答した事業者が、事業者間取引では89.4%、消費者向け取引では78.7%、「全く転嫁できていない」と回答した事業者が、事業者間取引では1.6%、消費者向け取引では3.1%となっている。

引き続き、転嫁状況の監視・取締りなどを通じ、転嫁拒否行為の未然防止を図るとともに、違反行為に対しては厳格に対処していく。

【公表日】 2017年9月29日

<詳細は以下を参照>

<http://www.meti.go.jp/press/2017/09/20170929008/20170929008.html>



## 11月は「下請取引適正化推進月間」! ～取引条件相互に築く未来と信頼～ 中小企業庁・公正取引委員会

中小企業庁及び公正取引委員会は下請取引の適正化について、下請代金支払遅延等防止法(以下「下請法」という)の迅速かつ確な運用と違反行為の未然防止、下請中小企業振興法(以下「下請振興法」という)に基づく振興基準の遵守を指導すること等を通じ、その推進を図っている。特に、毎年11月を「下請取引適正化推進月間」とし、下請法の普及・啓発事業を集中的に行っている。

本年度は以下の取組を行う。

- ① 平成29年度「下請取引適正化推進月間」キャンペーン標語(公正取引委員会との連携事業)
- ② 特別事情聴取等の実施を通じた下請法の厳格な運用(中小企業庁独自事業)
- ③ 普及・啓発
  - ・ 下請取引適正化推進講習会の開催(公正取引委員会との連携事業)
  - ・ 下請取引適正化推進シンポジウム・セミナーの開催(中小企業庁独自事業)
  - ・ 適正取引推進講習会の開催(中小企業庁独自事業)
  - ・ 下請かけこみ寺の利用促進(中小企業庁独自事業)



下請取引適正化推進月間ポスター

【公表日】 2017年10月2日

<詳細は以下を参照>

<http://www.meti.go.jp/press/2017/10/20171002010/20171002010.html>



## 中堅・中小製造業向け「スマートものづくり 応援ツール・レシピ」取りまとめについて

経済産業省

ロボット革命イニシアティブ協議会(以下、RRI)では、中堅・中小製造業が簡単に、低コストで使えるIoTツール・IoTレシピを募集し、応募されたツールやレシピ情報を「スマートものづくり応援ツール・レシピ」として取りまとめた。

経済産業省は本取組を支援しており、今後も中堅・中小製造業のIoT活用の推進を図っていく。

【公表日】 2017年10月10日

<詳細は以下を参照>

<http://www.meti.go.jp/press/2017/10/20171010002/20171010002.html>



## 「中小企業の経営の改善発達を促進するための 中小企業信用保険法等の一部を改正する法律」の施行期日政令及び整備政令が閣議決定

経済産業省

第193回通常国会において成立した「中小企業の経営の改善発達を促進するための中小企業信用保険法等の一部を改正する法律」(以下「改正法」という。)について、改正法の施行期日を定める政令及び改正法の施行に伴う関係政令の整備に関する政令が、本日閣議決定された。改正法は、信用補完制度を通じて、中小企業の経営改善・生産性向上を促進するため、新たなセーフティネットとして危機関連保証の創設や小規模事業者等への支援拡充を行うとともに、信用保証協会と金融機関の連携による中小企業の経営の改善発達の支援の強化等の所要の措置を講じるものである。なお、改正法の施行期日を2018年4月1日に定めた。

【公表日】 2017年10月20日

<詳細は以下を参照>

<http://www.meti.go.jp/press/2017/10/20171020001/20171020001.html>



## 労働安全衛生施行令の一部を改正する政令 及び労働安全衛生規則の一部を改正する省令 の施行について

厚生労働省

アスファルト等10物質について、労働安全衛生法施行令別表第9に追加すること及び非晶質シリカを除外すること等を内容とする労働安全衛生法施行令の一部を改正する政令及び労働安全衛生規則の一部を改正する省令が、2017年8月3日に公布された。

これら改正政省令は、10物質の追加については2018年7月1日から、非晶質シリカの除外については2017年8月3日から施行される。

この改正により、アスファルト等10物質は、譲渡・提供の際のラベル表示、SDS(安全データシート)の交付、製造・取扱いの際のリスクアセスメントの実施が義務となる。

化学物質等の適切な管理に関する制度改正の趣旨をご理解いただき、周知にご協力をお願いします。

【公表日】 2017年8月3日

<詳細は以下を参照>

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000173873.html/>



## 2017年度『見える』安全活動コンクール」の実施について(協力依頼)

### 厚生労働省

厚生労働省では9月1日から、労働災害防止に向けた事業場・企業の取組み事例を募集・公開し、国民からの投票により優良事例を選ぶ2017年度『見える』安全活動コンクール」を実施する。このコンクールは、安全活動に熱心に取り組んでいる事業場等が国民や取引先に注目される運動(「あんぜんプロジェクト」)の一環として実施するもので、2011年度より実施しており、今年度で7回目となる。優良事例を3月上旬に発表予定。

「見える」安全活動とは、危険、有害性について、通常視覚的に捉えられないものを可視化(見える化)し、活用することによる効果的な取組みであり、自社の安全活動を企業価値(安全ブランド)の向上に結びつけ、一層、機運を高めることも狙いとしている。

【公表日】 2017年8月30日

<詳細は以下を参照>

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000175799.html>



## 無期転換ルールの円滑な導入に向けた取組に関する要請書

### 厚生労働省

2013年に4月の改正労働契約法第18条で規定された無期転換ルールは、「雇止め」の不安などを解消し、安心して働き続ける事ができる社会を実現することで労働者は長期的なキャリア形成を図り事ができ、企業も優秀な人材確保が可能となるものである。

無期転換ルールについては労使で十分話し合った上、対応には一定の時間を要するため、本年9月から10月を「無期転換ルール取組促進キャンペーン」期間と定め誘致、円滑な導入を図ることとした。

【公表日】 2017年9月1日

<詳細は以下を参照>

<http://muki.mhlw.go.jp/>



## 職場における死亡災害撲滅に向けた緊急要請について

### 厚生労働省

労働災害のよる4日以上の死傷者数は、昨年は前年より増加し、2017年も減少傾向はみられていない。また、死亡者数は、2017年は対前年比で9.6%(8月末現在)の増加となっており、極めて憂慮すべき事態となっている。このため職場における死亡災害撲滅に向けた基本的な安全活動の

着実な実施、確認という原点に立ち返って企業の安全衛生活動を総点検いただけるよう、下記の取組と併せて緊急要請をする。貴団体としても取組に強化いただくとともに、会員事業場への周知をお願いする。

1. 安全作業マニュアルの遵守状況を確認するなど、職場内の安全衛生活動の総点検を実施すること
2. 安全管理者、安全衛生推進者、安全推進者等を選任し、その職務を確実に遂行させるなど、事業場の安全管理体制を充実すること
3. 雇入れ時教育等を徹底するなど、効果的な安全衛生教育を実施すること

【公表日】 2017年9月22日

<詳細は以下を参照>

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000178011.html>



## 粉状物質の有害情報の伝達による健康障害防止のための取組について

### 厚生労働省

有害性が低い粉状物質(表示・通知義務の対象とならない物質)のおいても譲渡提供の際のラベル表示や安全データシート(「SDS」という)の公布により粉状物質の有害性情報が事業場の衛生管理者や労働者等に的確に伝達されるよう「粉状物質の有害性情報の伝達による健康障害防止のための取組」を定めている。粉状物質の有害性情報の伝達に関する取組の趣旨を理解の上、貴会会員、事業場において周知の協力をお願いします。

【公表日】 2017年10月24日

<詳細は以下を参照>

<http://www.hourei.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T171026K0020.pdf>



## 黄綬褒章受章

トヨタ車体(株)萩原浩樹氏はプレス用金型製作に従事し、自ら技能研鑽に努め精励し、工作機械では仕上げるできない困難な部位の型調整と修正を全て手仕上げで作り込むことができ、手掛けた金型は、完璧な精度に仕上げられ熟成されたその技能はその他の追随を許さない業界トップとの絶賛を得ている。

また、その技能を活かして、様々な改善に取り組むとともに、匠の技の技術伝承のため、後進技能者の指導・育成に貢献し、自動車車体産業の発展に大いに寄与したことにより、黄綬褒章を授与され、厚生労働省より11月14日伝達された。

なお、同氏は2016年度「卓越した技能者」を受賞されている。



## お知らせ

### 3月講演会のご案内

日時 2018年3月15日(木) 14:30~16:00  
場所 日本自動車会館 くるまプラザ1・2・3会議室 東京都港区芝大門1-1-30

講演会内容 講演テーマ：「AI(人工知能)と働き方改革」

講演者：伊東 千秋 氏  
元 富士通株式会社 取締役副会長  
元 株式会社富士通総研 代表取締役会長

参加費 無料

申込み 当会ホームページに掲載する用紙、又は会員へメール配信する用紙にてお申し込みください。  
2月中旬展開予定。

## 訃報

当会の元監事 犬塚敏樹氏(株)犬塚製作所 前代表取締役社長)が10月6日に逝去されました(享年76歳)。

当会特装部会事業に大きく貢献され、また1983年~2011年の長きに亘って当会監事に就任されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



故 犬塚 敏樹 氏

## トレーラのブレーキ・バルブ凍結による車両火災に注意

トレーラのブレーキ・バルブ凍結による車両火災に注意

※※※ブレーキ機器の水分除去のお願い※※※



ブレーキ機器が凍結すると非常に危険な状態になります。凍結を防止するためにエア・タンクの水抜きを励行すると共に、特に冬期に入る前にブレーキ機器の点検整備を行い、ブレーキ用エアに含まれている水分の除去を行ってください。

トラクタとトレーラのエア・タンクからの水抜き

エア・タンクからの水抜きは、道路運送車両法で使用者または運行する人により日常(運行前)点検することが義務付けられており、車両を安全に運行するために非常に重要なことです。

エア・ドライヤを装着した車両においても水抜きを励行し、車両の安全な状態を確保してください。

※エア・タンクから多量の水分が排出されるときは、エア・ドライヤの機能が低下している可能性があります。

トラクタのエア・ドライヤの点検整備

ブレーキ用エアに含まれる水分は、ブレーキ機器の潤滑油を洗い流して作動を妨げ、冬期においては凍結して作動不良になる危険性があります。これらの問題を解決するためトラクタにエア・ドライヤが装着されていますが、性能を維持するためには定期的な点検整備が必要です。

乾燥剤やフィルタなどの交換時期等については各トラクターメーカーの取扱説明書やメンテナンス・ノートに従ってください。

ブレーキ機器の点検整備は、専門のサービス工場(認証工場)で受けて下さい。

# NEWS+FLASH

## 月度活動状況

| 9月  |                           |                                                                    |
|-----|---------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 1日  | トレーラ部会／サービス委員会            | ①各県トラック協会研修会内容のフィードバック確認<br>②トレーラ定期点検整備内容の確認検討                     |
| 5日  | バス部会／技術委員会                | ①市場調査結果を踏まえた多言語対応銘板の方向性確認<br>②バリアフリー整備ガイドライン検討状況の共有                |
| 6日  | バン部会／業務委員会                | ①営業新人教育の手引きを協議、バン車解説資料作成で合意<br>②架装物の点検制度の最新情報を共有                   |
| 8日  | 特装部会／ダンプ車技術分科会            | ①飛散防止装置の改正内容の周知について状況報告<br>②荷台降下防止安全基準等の改正検討                       |
| 11日 | 小型部会／技術委員会(静岡)            | 自動車技術会主催の学生フォーミュラ視察 ▶P.16                                          |
| 12日 | トレーラ部会／技術委員会              | ①みなしパンパの今後の進め方を議論<br>②R13-TRIAS様式記載要領の統一化検討                        |
|     | 特装部会／ローリ技術分科会             | ①架装物の安全点検制度に関する最新情報共有<br>②2017年度事業テーマ検討                            |
| 14日 | トラック部会／業務委員会              | ①本年度テーマの人材育成と教育で新入社員の研修を論議<br>②架装物の点検制度の最新情報を共有                    |
| 15日 | 環境委員会／架装物リサイクル分科会         | 第2回環境委員会報告内容の検討                                                    |
|     | 特装部会／脱着車合同分科会             | ①架装物の安全点検制度の最新情報の共有と対応検討<br>②脱着車用突入防止装置の取付基準に関するJABIA規格検討          |
| 19日 | 第1回支部連絡会(愛知)              | ①支部事業活動の共有化と良いとこどり活動について論議<br>②車体業界の動き及び地域特有情報の共有 ▶P.12            |
|     | 環境委員会／工場環境分科会             | 第2回環境委員会報告内容の検討                                                    |
| 20日 | バン部会／部会会議                 | ①基準化、規格化項目の進捗状況報告<br>②架装物の点検制度の最新情報共有、バン車対応を論議                     |
| 21日 | トラック部会／技術委員会              | ①トラック対象車両の車両用語の統一の用語を論議、合意<br>②中央技術委員会各WGの最新情報を共有                  |
| 22日 | 特装部会／技術委員会(香川)            | ①2017年度事業計画の進捗について報告<br>②協定規則改訂情報等について情報共有<br>③最新の車両法規改正情報について情報共有 |
|     | トレーラ部会／サービス委員会            | ①トレーラ定期点検整備の手引き見直し検討と確認<br>②新規サービスニュース発行について内容議論                   |
| 25日 | トレーラ部会／製品安全委員会            | ①点検整備費用の工数設定の議論<br>②2016年度版点検整備方式の周知方法議論                           |
| 26日 | 中央技術委員会／<br>UN-R58-03対応WG | ①みなしパンパの具体的な運用検討<br>②R58-03対応パンパの識別表示検討                            |
| 27日 | 商用車ショー企画委員会兼出展社会議         | ①展示レイアウト、スタンプラリー、パンフレット等の合意<br>②会期中の運営方法の確認                        |
| 28日 | 特装部会／業務委員会                | ①2017年度事業計画の進捗について情報共有<br>②中央業務委員会への報告内容検討                         |
|     | トレーラ部会／業務委員会              | ①トラック協会での研修会内容フィードバックと今後の進め方検討<br>②トレーラ生産台数推移の検証と検討                |
| 29日 | 特装部会／クレーン車技術分科会           | ①BSIS、後退時後方視界等協定規則改訂情報の共有<br>②アウトリガー装着車へのコーションラベル記載内容検討            |
|     | 特装部会／サービス委員会              | ①メンテナンスニュース№44(点検制度導入版)検討<br>②メンテナンスニュース№45(トラック架装型クレーン車版)検討       |

|     |                         |                                                                                 |       |
|-----|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 29日 | 特種部会／<br>技術・業務合同委員会(新潟) | ①「中小会員の課題と対応策」を論議、合意<br>②技術課題(マフラー変更/新規検査)に対する対応の共有<br>③自動車機構との技術検討会開催について論議、合意 | ▶P.15 |
|     | 特種部会／工場見学会(新潟)          | ㈱中北車体工作所、㈱北村製作所の工場見学を実施                                                         | ▶P.15 |

## 10月

|     |                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |      |
|-----|------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 2日  | 中央技術委員会                      | ①2017年度事業計画の進捗について報告<br>②協定規則改訂情報等について情報共有<br>③最新の車両法規改正情報について情報共有                                                                                                                                                                                                                                                        |      |
| 3日  | 中央技術委員会／点検整備推進分科会            | ①特装、トラック、バン部会の活動状況共有と対応論議<br>②点検制度ステッカーの運用方法等論議                                                                                                                                                                                                                                                                           |      |
| 4日  | 環境委員会                        | ①JTP/ELV架装物解体作業確認結果報告<br>②CO <sub>2</sub> 排出量の実績報告                                                                                                                                                                                                                                                                        |      |
| 5日  | 特装部会／塵芥車技術分科会                | ①BSIS、後退時後方視界等協定規則改訂情報の共有<br>②塵芥車の新ISO規格の最新情報共有と今後の方針検討                                                                                                                                                                                                                                                                   |      |
|     | トラック部会／部会会議                  | ①調査、研究、共通化項目の進捗状況報告<br>②中央委員会の進捗情報の共有<br>③架装物の点検制度の最新情報を共有                                                                                                                                                                                                                                                                |      |
| 6日  | 中央業務委員会                      | ①中小会員の困りごと、支援策について論議、継続論議を決定<br>②2018年度税制改正要望案について合意<br>③コンプライアンス優先経営調査を各部会毎に実施を決定                                                                                                                                                                                                                                        |      |
| 10日 | 特装部会／ミキサ車技術分科会               | ①BSIS、後退時後方視界等協定規則改訂情報の共有<br>②新JABIA規格(コンクリートミキサ車の標準規格)検討                                                                                                                                                                                                                                                                 |      |
| 12日 | 常任委員会                        | ①2025年燃費規制の動きについて報告、論議<br>②2017年度理事会メンバー見学会企画について論議                                                                                                                                                                                                                                                                       |      |
|     | 第242回理事会                     | ①審議事項<br>第1号議案 新入会員に関する件<br>②報告事項<br>1) 2017年度事業計画 本部・部会・支部別2/4期実績まとめ<br>2) 2017年度2/4期 収支実績まとめ<br>3) 2016年度 会員企業の売上高/従業員数まとめ<br>4) 2016年度 PL保険加入状況とPL事故事例<br>5) 2017年度 基準化/共通化/調査研究テーマ進捗状況<br>6) CO <sub>2</sub> 及びVOC排出量フォローアップ結果<br>7) 2018年度 税制改正に関する要望について<br>8)「車体工業会70年史」制作の進捗状況<br>9) 東京モーターショー2017「働くくるま」合同展示進捗 他 |      |
|     | 講演会(くるまプラザ会議室)               | 三菱ふそうトラック・バス㈱「国内トラック市場の需要動向と業界を取り巻く環境」講演会の実施                                                                                                                                                                                                                                                                              | ▶P.5 |
| 13日 | バン部会／技術委員会                   | ①その他の灯火等取付けに関し資材部品メーカーと意見交換<br>②中央技術委員会各WGの最新情報を共有<br>③日冷工との意見交換会の議題を協議、決定                                                                                                                                                                                                                                                |      |
| 17日 | トレーラ部会／技術委員会                 | ①みなしバンパの今後の進め方議論<br>②最少回転半径の実測について確認検討                                                                                                                                                                                                                                                                                    |      |
| 18日 | バス部会／ワンマン機器委員会               | ①次年度の技術テーマについて論議<br>②JABIA規格「バス用運賃箱」の改正案作成                                                                                                                                                                                                                                                                                |      |
|     | 特装部会／部会長報告会                  | ①2017年度事業計画の進捗報告<br>②当面の課題等報告                                                                                                                                                                                                                                                                                             |      |
| 20日 | トラック部会/車両運搬車分科会              | ①日本陸送協会との研修会の議案を協議、合意<br>②各社の生産状況について意見交換実施                                                                                                                                                                                                                                                                               |      |
| 23日 | トレーラ部会／製品安全委員会               | ①点検整備費用の工数設定の検討<br>②分解整備記録簿による点検整備の検討                                                                                                                                                                                                                                                                                     |      |
| 24日 | 中央技術委員会／<br>突入防止装置技術委員会(神奈川) | JABIAプレート制度の運用状況調査と指導                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |      |

# NEWS+FLASH 月度活動状況

|                  |                      |                                                                  |      |
|------------------|----------------------|------------------------------------------------------------------|------|
| 26日              | トレーラ部会／サービス委員会       | ① 定期点検整備の手引き更新項目検討<br>② サービスニュース見直し、新規発行について検討                   |      |
| 27日              | 秋季会員大会(東京)           | 2017年度秋季会員大会を実施                                                  | ▶P.3 |
| 10月27日<br>～11月5日 | 第45回東京モータショー2017(東京) | 東屋外展示場に11社13台を展示                                                 | ▶P.7 |
| 30日              | 特装部会／サービス委員会         | ① メンテナンスニュースNo44(点検制度導入版)検討<br>② メンテナンスニュースNo45(トラック架装型クレーン車版)検討 |      |
| 31日              | 特装部会／粉粒体運搬車技術分科会(埼玉) | ① BSIS、後退時後方視界等協定規則改訂情報の共有<br>② フルトラクタ注文仕様の統一様式検討                |      |

| 11月 |                            |                                                              |       |
|-----|----------------------------|--------------------------------------------------------------|-------|
| 1日  | 中央技術委員会／点検整備推進分科会          | ① 「現場力と人材育成」をテーマに講演会を実施<br>② 三工業会合同活動について状況報告                |       |
| 2日  | 特装部会／脱着車キャリアコンテナ技術合同分科会    | ① BSIS、後退時後方視界等協定規則改訂情報の共有<br>② 脱着車用突入防止装置の取付基準に関するJABIA規格検討 |       |
| 7日  | 特装部会／ローリ業務分科会              | タンクローリの塗装仕様の情報共有                                             |       |
| 8日  | 中小会員ネットワーク強化WG(千葉)         | ① 労働者健康安全機構との意見交換<br>② 中央技術委員会の課題の共有<br>③ 点検表の標準化検討          | ▶P.11 |
| 10日 | トラック部会・資材部会／工場見学会(愛知)      | 日本トレス(株)の工場見学を実施                                             | ▶P.15 |
|     | 特装部会／サービス委員会工場見学会(香川)      | ㈱タダノの志度工場を見学                                                 | ▶P.14 |
| 13日 | 安全衛生活動WG                   | ① 労働災害事例の研究<br>② 安全意識醸成方策の意見交換                               |       |
| 16日 | トレーラ部会／業務委員会               | ① 2018年度広告事業について議論<br>② 地方トラック協会研修会内容フィードバック展開               |       |
|     | 中央技術委員会／突入防止装置技術委員会(大分・福岡) | JABIAプレート制度の運用状況調査と指導                                        |       |
|     | 人事労務研究会／労政合同勉強会(東京)        | ① 「65歳定年制度導入から5年」をテーマに講演会を実施<br>② 『高齢者雇用の取組み』について情報共有        | ▶P.13 |
| 17日 | 特種部会／見学会(愛知)               | 大日本塗料(株)、トヨタテクノクラフト(株)の工場見学を実施                               | ▶P.15 |
|     | バン部会／見学会(神奈川)              | ㈱パブコ、三菱ふそうトラック・バス(株)の工場見学を実施                                 | ▶P.16 |
|     | トレーラ部会／見学会(広島)             | コベルコ建機(株)、㈱ユーシンの工場見学を実施                                      | ▶P.16 |
| 20日 | トレーラ部会／製品安全委員会             | ① 点検整備費用の工数設定の検討<br>② 自動車分解整備記録簿による点検整備について検討                |       |
|     | トレーラ部会／サービス委員会             | 点検整備方式の内容確認検討                                                |       |
| 21日 | トレーラ部会／技術委員会               | ① みなしパンパについて今後の進め方検討<br>② 最少回転半径について今後の進め方検討                 |       |
|     | バス部会／塗装技術者向け勉強会(東京)        | 当会会員対象の塗装技術者向け勉強会実施                                          |       |
| 22日 | トラック部会／技術委員会               | ① トラック用荷台床材料の特性調査の結果確認<br>② 中央技術委員会各WGの最新情報を共有               |       |

|     |                              |                                                                              |       |
|-----|------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 24日 | 広報委員会                        | ①車工会70年史内容に関する確認・合意<br>②車体NEWS冬号の校正と春号の企画の論議<br>③2017年度事業計画進捗と2018年度事業計画案を論議 |       |
|     | 環境委員会／架装物リサイクル分科会            | 第3回環境委員会報告内容の検討                                                              |       |
| 27日 | 環境委員会／架装物リサイクル分科会<br>(栃木・埼玉) | 小平産業(株)とUDトラックス(株)の工場見学を実施                                                   | ▶P.10 |
|     | 特装部会／清掃車小委員会工場見学会<br>(千葉)    | 出光興産(株)千葉製油所の工場見学会を実施                                                        | ▶P.14 |
|     | パン部会／業務委員会                   | ①「営業新人教育の手引き」反映項目を協議、合意<br>②架装物の点検制度の最新情報を共有                                 |       |
| 28日 | 特装部会／清掃車小委員会                 | ①BSIS、後退時後方視界等協定規則改訂情報の共有<br>②強力吸引車の年次点検項目共通化検討                              |       |
|     | パン部会／技術委員会                   | ①「その他の灯火」取付けについての手引書の内容を確認<br>②架装物の安全点検制度について日冷工と意見交換実施                      |       |
| 29日 | 環境委員会／工場環境分科会                | 第3回環境委員会報告内容の検討                                                              |       |
|     | バス部会／技術委員会                   | ①多言語対応銘板の方向性及び内容確認<br>②次年度技術テーマの意見交換                                         |       |
| 30日 | 環境委員会／見学会<br>(岐阜)            | 岐阜車体工業(株)の工場見学を実施                                                            | ▶P.10 |
|     | 特装部会／サービス委員会                 | ①メンテナンスニュース№44(点検制度導入版)検討<br>②メンテナンスニュース№45(トラック架装型クレーン車版)検討                 |       |
|     | トラック部会／業務委員会                 | ①本年度テーマの人材育成と教育で工場関係への教育を論議<br>②架装物の点検制度の最新情報共有                              |       |

## 会員情報

- 入会 準会員 ㈱Earth Power 代表取締役 佐々木 順也  
〒146-0094 東京都大田区東矢口3-26-7 TEL：03-6424-5005  
【主要製品】 DC-ACインバータ、バッテリー充電器、鉛蓄電池、リチウムイオンバッテリー、  
AC-DCパワーサプライの取り扱い  
【所属部会】 資材部会
- スウェーデンスティール(株) 代表取締役 瀧上 達也  
〒108-0014 東京都港区芝5-26-20 TEL：03-3456-3447  
【主要製品】 スウェーデン鋼板の輸入販売  
【所属部会】 資材部会
- 代表者 正会員 ㈱クラタ 代表取締役社長 加瀬 隆宏  
変更 ㈱シスコム 代表取締役社長 黒須 裕幸  
高田工業(株) 代表取締役社長 齋藤 英俊  
日本機械工業(株) 代表取締役社長 高田 立雄
- 本社移転 準会員 日本特殊塗料(株)  
〒114-8584 東京都北区王子3-23-2 ※電話番号、FAX番号は変更ありません。

### ◆訃報

笠原自動車工業(株) 代表取締役 笠原 武二氏 11月18日逝去



頼定 修 代表取締役社長



### DATA

- 本社 〒700-0962 岡山県  
岡山市北区北長瀬表町3-19-10  
TEL 086-241-9051  
FAX 086-244-5070  
URL <http://okayo.net/>
- 資本金 300万円
- 従業員 11名
- 事業所規模(本社工場)  
敷地 約2,700㎡  
建坪 約1,200㎡
- 車体工業会加入  
2010年(トラック部会)



## (株)岡山熔接所

### Eマーク取得「可動式リヤバンパー」で 働くクルマの安全性を向上。

「熔接所」という名に込められた創業者のモノづくりへの熱い思いを引き継いで、安全性と品質にこだわる(株)岡山熔接所は、国際規格であるEマークを取得した「可動式リヤバンパー」のパイオニア企業である。

取材/車体工業会事務局次長 兼 業務部長 色摩 隆一

### ● 特徴・沿革

(株)岡山熔接所は、1950年創業、現社長の祖父が営んでいたトラックの解体・修理業をルーツとし、自動車産業の隆盛とともに架装も手がけるようになった。創業者を慕う取引先の要望で社名に「熔接所」を残している。

創業当初は岡山市役所のある大供で操業していたが、町が栄えるにつれて中仙道に移転を余儀なくされる。更に区画整理によって、17年前に現住所へ移転する。現在地の周辺も土地開発で病院が建ち、マンションや商用ビル等の計画が進行しているため、市内の離れた土地に塗装を中心とした工場を建設中である。

長年架装を主たる業務としてきた(株)岡山熔接所に転機が訪れるのは1992年、独立して別会社を運営していた叔父が「可動式リヤバンパー」に関する特許を取得した。(株)岡山熔

接所では既に製品として製造していた実績を持っていたので、叔父の独立後も製造・販売の

権利を所有することができた。

この「可動式リヤバンパー」は、作業時にはバンパを格納することができ、作業効率を向上させ、走行時にはバンパが出た状態となり、追突を軽減するとともに、追突車両のもぐり込みを防ぎ、安全に貢献する製品で、格納方法もシャシに合わせて「引き出し式」「上下式」等の様々なバリエーションが用意されている。

国土交通省の「突入防止装置型式指定」を取得しているのも、固定式のバンパから交換するだけで車検を通することができる。はじめは岡山県近郊の顧客の要望に合わせて、様々なシャシに適合する等の多数の製品群を開発・販売していたが、「Eマーク」を取得した製品をリリースした2008年、ホームページ上で公開したところ、全国から大きな反響があり、北海道から九州・沖縄まで「可動式リヤバンパー」の市場は拡大している。

「可動式リヤバンパー」は、当会主催の2016年の技術発表会でも紹介している(車体NEWS2016年春号)。

## 製品

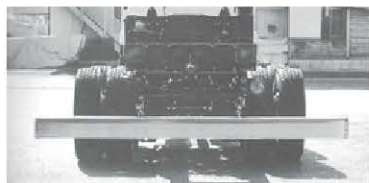
### — 御社の業務の特徴についてお聞かせください。

ステンレスをはじめとした金属加工を中心とする架装を得意としています。1台の架装を自社だけで仕上げるのではなく、車体工業会会員企業とのコラボレーションによる架装を多く行っています。

また、弊社のホームページ上で、「突入防止装置リヤバンパーの開発・販売を専門」と謳っているように、リヤバンパ専門のメーカーとしての知名度を得ています。



キャビンのスイッチの操作で、ダンブアップ時に、リヤバンパを格納できる。



変形した後も、元の形状に回復するアルミ製の「固定式リヤバンパー」

### — どのような製品を手掛けているのでしょうか？

他社とのコラボレーションによる架装では、ダンブアップさせずに積荷を後方に移動できる「ウォーキングデッキ」や長尺のコンテナを積載するフレーム等の大きな物から、車体の屋根上で作業をする際に落下を防止する「立ち上がり式の手すり」や航空機の給油車に給油中に不用意にエンジンが始動しないようにする装置等の安全性を向上する架装も得意としています。



屋根上作業中の落下事故を防止する「立ち上がり式手すり」

事業の1つの柱である「リヤバンパー」はEマークを取得し、様々な車種に対応できる製品で、全国のお客様から問い合わせをいただいています。「可動式」の他にも、強度の高いアルミを使用することで、元の形状に回復する「固定式アルミリヤバンパー」も開発し、バンパ事業にも力を注いでいます。



長尺のコンテナを積載するためにフレームに突起を溶接



床板が交互にピストンすることで、積荷が後方に移動する「ウォーキングデッキ」



安全対策をした燃料給油車

### — 御社の経営方針は？

短期間で多くの製品を作るのではなく、品質にこだわった付加価値の高い製品を作り続けることです。

スタッフ全員が効率よく短期間で良質の仕事をこなせるようになることで、自分たちの自由で豊かな時間を作ることができます。

## 人

### — 御社の特徴は？

塗装、溶接・組立、電気、それぞれの分野に特化した少数精鋭のスタッフとなっています。

1日7.5時間労働を目標としています。残業をしないようにするため、全員の集中力と生産性はとても高い状態です。納品時には最終点検を兼ねて、自分たちで全体の清掃を行

い、手が切れやすそうなエッジ部分があれば研磨し、仕上り感にもこだわっています。

### — 次世代の教育について

人材の確保が難しい時代でありますが、一人の負担が増えていく多能工は、会社全体の技術レベルを低下させる可能性があります。

一人ひとりの技術レベルの向上に

そが、品質と生産性に優れた結果を生み出し、より安全性が重視されるこれからの時代に対応できる技術を蓄積することにつながります。



## 新しい設備で新しいモノを作る

(株)テンソー

(株)テンソーは1972年創業、車体用薄物鉄金部品を主な製品とし、多品種少ロット生産を得意としてきた企業である。大型バスの部品を中心としてきたが、2004年頃から建設機械のキャビンやパーツの製造を開始、2014年にはバス床板等の木材加工にも乗り出し、技術力の向上と業務領域の拡大を図っている。

バス前面の骨格部分、料金箱を置く台、タイヤハウスのフェンダー、後部シートとエンジンを遮る隔壁等、バス前部から後部にかけて、目に見えない箇所の多くの部品を製造している。バスに使用する鋼板は1.6～3.2mmの“薄物”が主流となるが、建設機械では、軽量化よりも安全性が優先されるため、バスより厚めの鋼板を使用している。様々な厚みの鋼板に対応できることも同社の特徴である。

月間30,000個を超える部品を製造・出荷しているが、同じ仕様の部品をまとめて作ることはしない。無駄を省いた計画生産を徹底することで、仕掛在庫や過度な材料在庫を持たない効率的な生産を行っている。さらに顧客から提供される図面を基に試作する段階で、長年のノウハウを生かして、材料や部品取付位置、工程全体を再検討し、顧客にとって、よりコストが低くなる提案も積極的に行っている。

### モノづくり集団への意識改革

5S運動を推進し、工場をはじめ事務所の整理整頓の徹底によって、工場の美化とともに社内全体で部品メーカーとしての意識を高めている。多品種少量を作る同社の製品には、曲げる方向が右か左かだけの違いの部品もあり、図面で確認しても間違えやすい物が多い。この単純なミスが減らすため、ほとんどの製造現場の手元には実物の見本が置いてあり、その場で見本と比較することでミスがないかをチェックできる。このような工夫を随所に採用している。



渡部 一弘  
管理部 部長

高野 満  
製造部 部長

### 加工機械とロボットを駆使して生産性向上を目指す

今年導入した最新のDDL(ダイレクトダイオードレーザー)は、最大厚25mmの鋼板を切断できる大型のレーザー加工機で、現在日本に3台しか導入されていない。現在の主業務にはオーパスベックと



日本に3台しかないDDLと切り出した極厚の鋼板

なるが、将来へ備え、最新の加工技術・能力を培っている。例えば、今までは鍛造や鋳造で成形していた厚物が、切断によって製造することも可能になる。

DDLでは、1,500×3,000mm迄加工可能となることや、最大加圧170t×4,000mmを曲げるプレーキプレス(曲げ機械)等も導入し、他社では作れないものを作る鉄金メーカーを目指し、大型加工設備の更新を続けている。

### 職人技術からロボットとの共栄

職人気質を大切にしてきたが、将来的に人材の確保が一層困難になることは明らかであるため、溶接をはじめとしたロボットの導入にも力を入れている。しかし、「多品種少ロットは自動化に向かない」「ロボットに教える時間があれば人間がやった方が速い」と、職人が多かった現場からの抵抗も最初は強く、理解を得るには時間も必要であった。

また、設備やロボットを増設する度に動線を再検討し、工場レイアウトを何度も変更しなくてはならない。重量のある精密加工設備の設置は、地面の水平レベルの調整等も重要となる。ロボット設置は周囲に柵を設ける必要もあり、工場レイアウトには多くの時間と労力を費やしている。

働き手が減少していく中で、新しい機械と技術を積極的に取り入れ、少人数によって高い生産性を確立させることを目指し、次の時代への投資を果敢に続けている。

(株)テンソー 代表取締役 福西 彰

チームワークと創意工夫で新規事業にチャレンジし続け、変化に立ち向かう改善力の向上を目指します。

【本社】〒329-1411 栃木県さくら市鷺宿4480-1

Tel: 028-686-4222

<http://www.kabu-tenso.co.jp/>



私たちは資材部会を専門分野ごとにグループ分けを行い、3分科会13グループからなる「ビジネスネットワーク」を設置しております。この「ビジネスネットワーク」は会員の強い連携と結束を実現し、架装メーカーに対して、積極的な協力体制を目指しています。

「VOICE」では、部会会員会社の紹介や製品が開発されるまでのエピソード等を紹介していきます。

## ワックスいらずで美観を保つ夢の床材

東リ(株)

天然素材を原料とするリノリウム床材は約150年前にイギリスで発明された。1919年に東洋で初めてリノリウムの製造に成功した東リ(株)は、「東洋リノリウム(株)」として創業し、2019年に創業100年を迎える歴史ある企業である。創業時に建てられた趣のある社屋は本社敷地内に現存し、伊丹市の文化財となっている。



伊丹市文化財となっている創業時の社屋

日本国内の6工場を製造拠点として、塩ビ床材・カーペット・カーテン・壁装材と長い歴史の中で事業を拡大し、インテリア業界をリードしている。建築用途への供給が売上の多くを占めるが、バスを中心に車両向けの製品も供給、JR東日本の高級列車「四季島」にも採用されている。

日本国内の6工場を製造拠点として、塩ビ床材・カーペット・カーテン・壁装材と長い歴史の中で事業を拡大し、インテリア業界をリードしている。建築用途への供給が売上の多くを占めるが、バスを中心に車両向けの製品も供給、JR東日本の高級列車「四季島」にも採用されている。

### ワックスメンテナンスが不要の床材の開発

光沢のある床の美観を維持するにはワックスによるメンテナンスが欠かせない。定期的に施工スペースを通行止めにし、専用の機械で「剥離」→「洗浄」→「ワックス塗布」を行わなければならない。商業施設やオフィスビルでは、人がいない時間帯に施工ができるが、大きなランニングコストであることは否めない。病院や福祉施設では、メンテナンスの時間が業務に差し支えることもあり、ワックスメンテナンス不要な床材は長い間待ち望まれていた。

床材メーカー各社も研究開発にしのぎを削っていたが、東リ(株)が他社に先駆けて開発に成功し、2012年10月にノーワックスを意味する「NW(エヌダブルユー)シリーズ」の発売を開始した。独自開発の「UV樹脂コーティング層」と「抗菌

防汚クリア層」で高い耐久性を実現し、ワックスメンテナンスが一切不要という画期的な製品を世に送り出した。

従来の塩ビシート上を土足で歩くと、靴底のゴムと床材の塩ビがこすれて黒ズミが発生し、非常に除去しづらい汚れとなるが、NWシリーズの床材は、まず汚れ自体がつきにくくなっている。多少付着した汚れも水拭きするだけで簡単に除去できるので、長期間に渡って美観を維持できる。

### イメージ図

印刷層



高耐久抗菌UV樹脂コーティング層

高い耐久性の「UV樹脂コーティング層」で防汚性能が長持ち。さらに抗菌。

高耐久抗菌防汚クリア層  
高い耐久性の「抗菌防汚クリア層」で汚れをダブルでブロック。長期間「キレイ」を保つ。

独自開発のUV樹脂は、通常の床材に使用するワックスに比べて、組成が緻密になっている。汚れが入りこむ隙間を微小化することで防汚を実現している。しかし、密度が高すぎると、シート本体の反りの原因にもなりやすい。スペック性能で約40年以上という耐久性を実現するため、UV樹脂の組成と貼り合わせる材料と様々な組み合わせのバリエーションが検討・テストされた。

国内本社に工場と研究施設があり、営業サイドからの顧客ニーズをいち早く取り入れ、開発から生産まで一貫して行うことができる同社の強みも開発に生かされた。

最初の製品発売から5年を経た現在は、防汚性能の向上とともに、シチュエーションに対応した豊富な意匠が用意されている。観光バスの床にも採用され、木目調の人气が高いという。東リ(株)はワックス不要で美観を維持できるNWシリーズをこれからも様々な床に広げていく。



ワックス不要で美観を維持できる



木本 智之

商品企画部 床材グループ  
グループリーダー 参事

平田 善紀

特販営業部 特販事業グループ  
グループリーダー 参事

東リ(株) 代表取締役社長 永嶋 元博

技術と信頼に立脚し「より豊かな住生活空間づくり  
に貢献する企業グループ」

【本社】〒664-8610 兵庫県伊丹市東岡5-125  
Tel: 06-6492-1331 <http://www.toli.co.jp/>



# 知りたい

## 「モーダルシフトの動向」は？

そこが 第35回

1997年の第3回気候変動枠組条約締約国会議(京都会議)で地球温暖化対策としてCO<sub>2</sub>を1990年に比べ2010年前後には6%程度削減することが決まった。運輸部門のCO<sub>2</sub>排出量は日本全体の約2割で、そのうち9割は自動車に占めている。このため、運輸省(現国土交通省)ではCO<sub>2</sub>削減に向けた取組みの一つとしてモーダルシフト(Modal shift)への対応が示され、既に20年が経過した。今回は、モーダルシフトの動向と今後について報告する。

## Q1 モーダルシフトとは？

モーダルシフトは、トラックによる幹線貨物輸送を、「地球に優しく、大量輸送が可能な海運または鉄道に転換」することである。その中で当初は長距離離貨輸送については、海運・鉄道の比率を当時の40%から2010年に約50%に向上させることを目標とした。一方、モーダルシフトを推進するためには、それだけの貨物量の確保、トラックなどとの積み替えなど、多様な関係者との連携が必要となる。

## Q2 モーダルシフト推進施策の経緯は？

モーダルシフトに関する取組みは、社会の環境変化を踏まえ、その時々課題である省エネ対策、労働力不足対策、環境対策等に対応する施策として取組み内容や目標を見直し、推進され現在に至っている。

| 時期         | 施策                                       | 概要                                                       | 参考                                                   |
|------------|------------------------------------------|----------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 1997年(H9)  | 地球温暖化問題への国内対策に関する関係審議会合同会議(※1)<br>【環境対策】 | 2010年までにモーダルシフト化率(※2)を現行の40%から50%に引き上げる方針を決定             | 1997年 COP3において京都議定書採択                                |
| 2001年(H13) | 総合物流施策大綱<br>【環境対策】                       | 2010年までに、モーダルシフト化率を50%を超える水準とすると規定                       |                                                      |
| 2002年(H14) | 地球温暖化対策推進大綱<br>【環境対策】                    | 2010年までのモーダルシフトの目標関連指標として、輸送分担率を採用(内航海運44%に向上、鉄道3.6%に向上) | 2002年 日本が京都議定書受託                                     |
| 2005年(H17) | 京都議定書目標達成計画<br>【環境対策】                    | 第一目標達成期間のモーダルシフト目標指標として、鉄道輸送トンキロ、海上輸送トンキロを採用             | 2005年 京都議定書発効、省エネ法輸送部門導入<br>2008～2012年 京都議定書第一目標達成期間 |
| 2015年(H27) | 交通政策基本計画<br>【環境対策・労働力不足対策】               | 2020年までのモーダルシフトの目標指標として、鉄道輸送トンキロ、海上輸送トンキロを引き続き採用         |                                                      |

※1 内閣官房主催、地球温暖化問題に関する審議会を代表する委員により構成  
※2 長距離輸送における鉄道・内航海運分担率

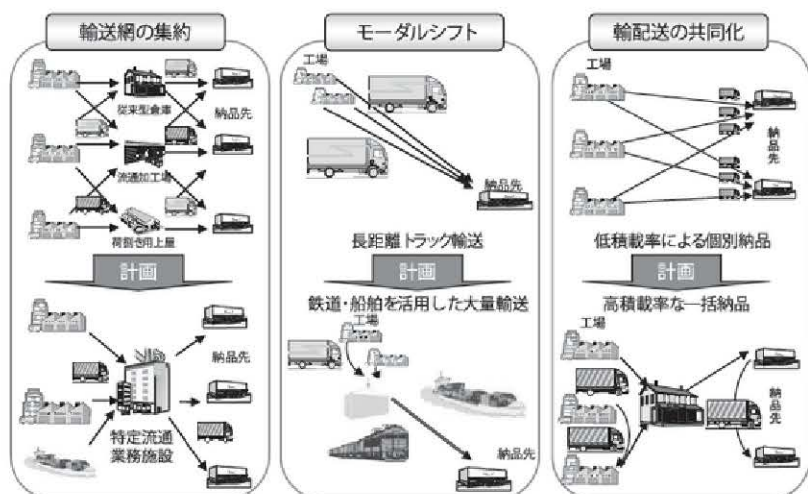
【出典:国土交通省「鉄道へのモーダルシフトの状況及び検討にあたっての問題意識について」】

## Q3 行政の支援は？

流通業務の総合化及び効率化の促進に関する法律(物流総合効率化法)は、流通業務(輸送、保管、荷さばき及び流通加工)を一体的に実施するとともに、「輸送網の集約」、「モーダルシフト」、「輸配送の共同化」等の輸送の合理化により、流通業務の効率化を図る事業に対する計画の認定や支援措置等を定めた法律である。

国土交通省は、同法に基づき、「2以上の者の連携」による流通業務の省力化及び物資の流通に伴う環境負荷の低減を図るための物流効率化の取組みを支援する。

<支援対象となる物流総合効率化事業の例>

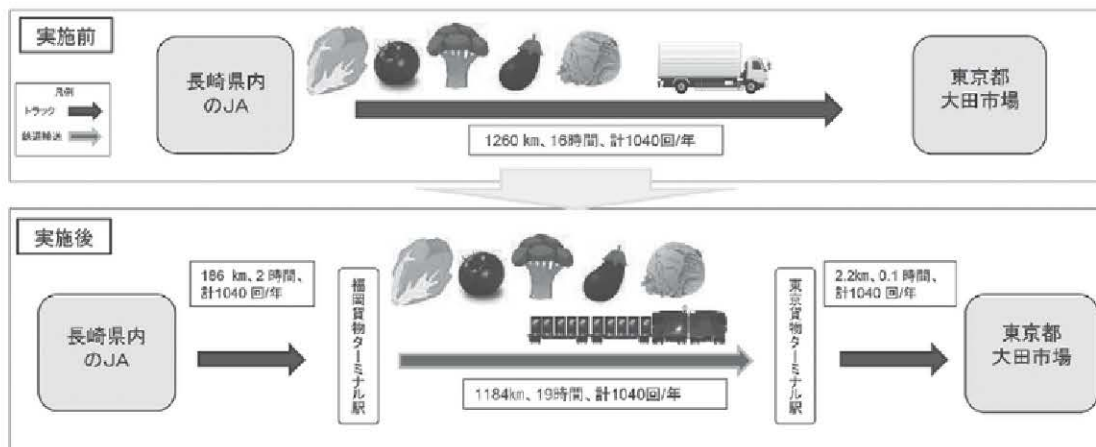


【出典:国土交通省「物流総合効率化法の概要」】

## Q4 モーダルシフトにはどのようなものがあるの？

国土交通省は、物流総合効率化法の認定状況を公表している。2016年度下期実績では19件が公表され、うち9件がモーダルシフトに分類され、8件が鉄道利用、1件が船舶利用となっている。

鉄道利用では、長崎県内のJAから東京都大田市場へのトラックによる農産物（白菜、レタス、ブロッコリー等）の輸送を、31フィートコンテナによる鉄道輸送に転換した事例は下図のとおり。

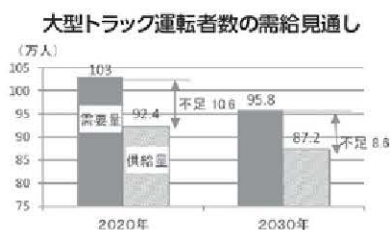


- 効果**
- ◇CO<sub>2</sub>排出削減量1,657 t-CO<sub>2</sub>/年(73%削減)
  - ◇ドライバー運転時間省力化14,456時間/年(87%削減)

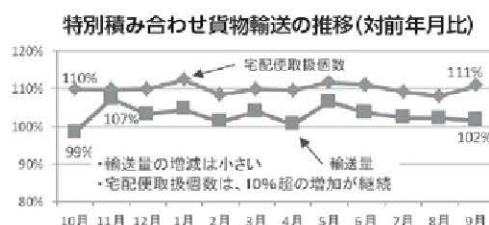
【出典：国土交通省「物流総合効率化法認定事例集」】

## Q5 モーダルシフトの課題は？

モーダルシフトの目的は、環境対策、労働力不足が主であり、手段として物流の効率化を図ることが重要となる。ネット社会と言われる中で宅配が増加し、物流は多頻度小ロット化の傾向が強くなってきている。また、企業間での物流では、物流総合効率化法により多様な関係者（荷主/物流事業者を問わず）の連携により物流ネットワーク全体の省力化・効率化をさらに進める枠組みが必要との認識で、共同配送/モーダルシフト等への取組みが奨励され、動きがでてきているところである。



【出典：鉄道貨物協会  
H25年度本部委員会報告書「大型トラックドライバー需給の中・長期見通しに関する調査研究」から作成】



【出典：国土交通省「トラック輸送情報」から作成】

- 課題**
- 共同配送は、企業間の連携・協力
  - 鉄道を利用したモーダルシフトの拡大では、利便性向上を図るため積卸拠点（貨物駅）の充実、整備

## Q6 働くクルマの対応は？

鉄道を利用したモーダルシフトは、長距離（500km以上）を想定したもので、コンテナの利用を前提としている。日本貨物鉄道（JR）が推進している31フィートコンテナは単車に載せられるものであり、今後はトラックボデーの需要増も考えられ、働くクルマとしての対応も期待される。



【出典：日本貨物鉄道（JR）HP】

# 働くクルマたち

社会に欠かすことのできない車体工業会会員が製造している多種多様な「働くクルマたち」について毎回、車種を選定してその特徴等、日頃は目にしないところを含めて紹介していく。

第19回目として、建築、設備、橋梁等の工事現場で活躍している特装部会会員が製造している「高所作業車」を紹介する。

## 第19回：高所作業車

高さ2m以上の箇所(地上より作業床までの高さ)で作業する場合を高所作業といいます。したがって、作業床が2m以上上昇する機械であるとともに動力を用いて上昇下降等をする設備を持ち、不特定の場所に自走できるものを高所作業車といいます。

その用途は、建築現場での鉄骨の建立、天井や外壁の取付、ダクト、配管などの取付、橋梁やトンネルの点検、メンテナンス、架空電線や通信線の建設、保守、そして造船所での船舶の建造や補修、空港での航空機の洗浄等となっており、幅広い現場で活躍しています。



高所作業車第一号機開発(1965年)  
資料提供: ㈱アイチコーポレーション

### 高所作業車の歴史

高所作業車は、1965年に第1号機が開発され、翌年発売されると、人が電柱に登って行っていた高所の配電工事での感電事故や墜落事故を大幅に減少させました。また、造船所では高所作業車の導入により、従来の足場を廃止することができ、作業中の墜落事故を減少させました。その後、地盤が悪い建設現場や鉄道のトンネル等での安全性、作業性を大幅に向上させるなど、いろいろな場面でより快適な作業環境を実現してきました。

### 高所作業車の種類と特長

高所作業車は、走行装置により、①トラックマウント式、②自走式(ホイール・クローラ)の2種類がありますが、車体工業会の生産実績には①トラックマウント式のみがカウントされます。

#### ①トラックマウント式

トラックに高所作業のための装置が架装され、公道走行ができます。拠点から拠点への高速移動が可能です。



#### ②自走式(ホイール・クローラ)

当初、造船所で導入された、敷地内を船体に沿って作業できる高い上昇能力と自走能力を持った「ホイール」と、後に不整地や狭い現場での走行に有利な「クローラ」があり、いずれも公道は走行できません。



また、構造により、①ブーム式、②垂直上昇式の2種類があります。作業装置の駆動源としては、シャシPTO・別置バッテリー・別置エンジン等が選択でき、駆動源が故障した場合でも、シャシバッテリーを用いた非常用駆動装置をあわせてもっています。

更に作業装置の動きにかかわらず、作業床を自動的に水平に保つことが求められるため、シリンダ式、センサー式、ワイヤー式によるレベリング装置が搭載されており、転倒防止装置をはじめとする作業時の安全装置が備えられています。

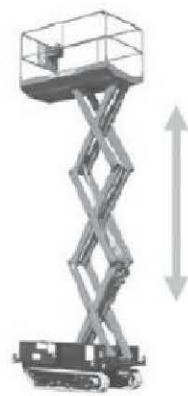
#### ①ブーム式

クレーンのようなブームを備え、起伏・伸縮・旋回の機能を持っています。作業床の移動を“伸縮ブーム”、“屈折ブーム”、“伸縮ブームと屈折ブームを合わせた混合ブーム”のいずれかでを行います。「ブーム式」は、主に作業床8m以上のトラック式や自走式で見られます。



#### ②垂直上昇式

プラットフォームが垂直に昇降する構造で、主に作業床高さが2~10mクラスの自走式でよく見られます。



## SK12C1RN型 高所作業車

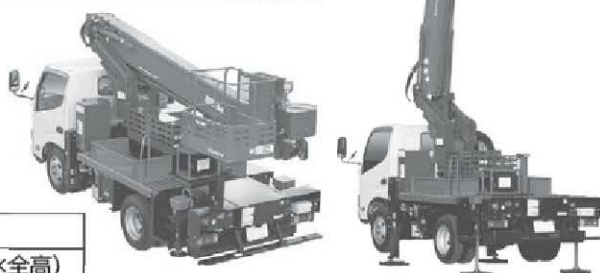
資料提供：(株)アイチコーポレーション

主に看板設置、工場メンテナンス、伐採など各種工事に適し、高い汎用性を追求した作業床までの最大地上高12m級の高所作業車です。

広い作業範囲を実現する「全周フルブーム」、作業占有面積を最小化する「直下型ジャッキ」を採用し、高い作業効率を実現しています。工場メンテナンス・伐採・夜間工事などの様々な状況に対応できる「荷台&工具箱」、「バッテリー駆動ユニット」等も準備しています。ダウンタイム(保守等による休止時間)をできる限り短縮するため、「シャシバッテリー電圧低下注意灯」、「エラーコード表示」も装備。作業時の暴走及びPTO切り忘れによるミッションの破損を防止するため、「ニュートラル検知インターロック装置」、「パーキングブレーキインターロック装置」、「PTO切り忘れ警報装置」を装備し安全性を高めています。

また、準中型免許で運転可能な車両総重量7.5t未満としています。

100Vのプラグイン充電機能に加えて、走行用エンジンからも充電可能としており、充電時間の短縮と利便性を向上させています。



|          |                              |
|----------|------------------------------|
| ベース車     | 日野 TKG-XZU600E 等             |
| 車両寸法(mm) | 4,540×1,905×3,095 (全長×全幅×全高) |

## BT-400 高架道路・橋梁点検車

資料提供：(株)タダノ

主に、大型橋梁や高速道路の点検やメンテナンスに使用される最大地下深さ17.4mの高架道路・橋梁点検車です。

伸縮式の第1ブームは防音壁やフェンスを容易に乗り越え可能で、更に旋回機能を備えた第2ブーム、3段伸縮式の第3ブームにより、作業現場への優れたアプローチと十分な差し込み長さを確保します。ブームと

バスケットの展開・格納はコンピュータ制御によりスイッチ一つで可能となっています。最大地上高は16.1mで高所作業にも使用可能です。

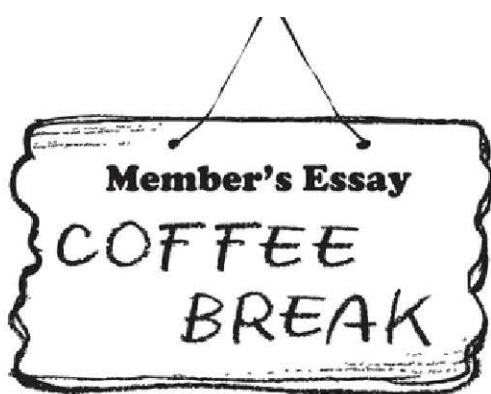
緩起動・緩停止制御、自己診断機能、ジャッキインターロック、ブームインターロック等を装備し、安全性も高めています。



|          |                              |
|----------|------------------------------|
| ベース車     | 日野 QDG-FS1EWEA-ZA 等          |
| 車両寸法(mm) | 11,500×2,490×3,700(全長×全幅×全高) |

## 高所作業車生産実績(2012～2016年度) ※「トラックマウント式」のみ

| 年度          | 2012              | 2013              | 2014             | 2015              | 2016              | 2017/4～9月         |
|-------------|-------------------|-------------------|------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 台数<br>(前年比) | 3,117<br>(117.6%) | 3,692<br>(118.4%) | 3,545<br>(96.0%) | 3,598<br>(101.5%) | 4,540<br>(126.2%) | 2,682<br>(109.9%) |



## 異なる世界への探検

■モリタ 商品開発部 西風 裕之

スキューバダイビングは、非日常の世界を体験できるものです。空気ボンベやダイビング機材は、地上で背負うとただ重くて苦しいだけです。水中に入ると重さは減り、なくてはならないものとなります。

水中では、自分の体重も浮力で軽く感じることから、まるで宇宙遊泳をしているかのイメージで浮遊感を感じることができます。

普段の日常生活では、絶対に感じる事ができないものです。

水中での体験は、それだけではあり



海中生物との出会い

ません。水中では、地上では目にすることができない、水族館でガラス越しにしか見られない生物と触れ合うことができます。特に、今まで感動したのは、沖縄の石垣島で見た、マンタです。自分より大きな生物が、間近で泳ぐ様は、何ともいえない感動を感じることができます。水族館でガラス越しに見る体験とは違い、果てが無い海の中の世界で、自由に泳ぐ様は、雄大さを体感できます。



海中でカメラを構える筆者

また、透明度の高い海では、映画の中でしか見られないような、蒼く静かな世界を目のあたりにし、幻想的でもあります。

ただし、そんな別世界では、人間の存在などちっぽけなもので、天候や海流の状態で、荒れることもあり、静かなだけでなく荒っぽい歓迎を受けることもあります。

そんな、日常とは異なる世界を体験することができるのがスキューバダイビングの魅力であり、わざわざ沖縄とか海外へ行きたくなる動機にもなります。

ここ数年は、子供が生まれたこともあって、異なる世界への探検ができない日々が続いて残念ですが、年をとってもできるスポーツです。一生の楽しめる趣味として、楽しんでいこうと思っています。

## マーチングバンド

■ヤシカ車体 代表取締役 星 浩由

皆さんは「ドラムアンドビューグルコー」、通称ドラムコーと呼ばれるものをご存知でしょうか？

ドラムコーとは軍楽隊を起源とするマーチングバンドのひとつの形態で、私は学生時代に勉学そっちのけで、このドラムコーに青春を燃やしておりました。

もう一つ質問！「アルムナイ」という英単語をご存知ですか？

アルムナイとは「卒業生、同窓生」の意味で、日本で言うところのOB・OGを意味します。

と言うことで私は現在、ドラムコーのアルムナイ、分かります！と言うとマーチングバンドのOB・OGバンドを楽しんでいます。

学生時代は『目指せ！内閣総理大臣杯！』ってな感じで、音楽活動のくせに体育会に負けられないほどの練習をし、『勝つこと』を目的に頑張ってきました。

でも、今は大会で競うでもなく、やりたい人がやりたい時に集まり、好きな音楽を奏で、そして帰りに呑む(これが一番の目的!?)。



現役とOBの合同集合写真



2016年 神奈川県大会

かけがえのない仲間たちや先輩・後輩たちと、気楽に好きな音楽をそれぞれのペースで楽しむことができ、充実したミュージックライフを送ることができています。

ただ、やっぱり目的や目標を持つことは大事なので、最近は地域のイベントで演奏やパレードを行ったり、マーチングの大会や演奏会に前座やゲストとして参加することで、人前に出る機会を増やしています。

でも、人前でやるからにはそれなりのクオリティーのモノを魅せたい・聴かせたいと思うと、やっぱり昔のクセなのか練習がハードな方向に向いてしまい、翌日の仕事に支障をきたすのが玉に瑕ですが…。

そんなこんなで、なんだかやけに年齢層が高いマーチングバンドを見かけたら、それはきっとボクたちなので、ぜひご声援をお願いいたします。



中央が筆者

## バイク

**山本車体工業株式会社 営業部 廣田 一馬**

もともとバイクに興味があったわけでは無いのですが、家族サービスもほどほどに時間を見つけては意気揚々とバイクにまたがり出発し、どっと疲れた顔をして帰ってくるそんな父の背中を見て育ったせいか私も気が付けば車より先にバイクの免許を取得しツーリングやバイク関係のイベント、レース観戦など休日はバイク中心の生活となりました。

ライダー憧れの地北海道に行ったことはありませんが

大体の行先だけを決めて気の向くまま程よい距離を疲れない程度に走って帰ってくるのが私の楽しみ方です。

バイクという趣味を通してたくさんの人と出会いたくさんの土地に足を運び刺激を受け楽しいバイクライフを送ることができました。



愛車と筆者

今年は免許取得から10年間乗り続けたバイクを廃車にすることとなりました。その代わりとして友人宅で長年放置されていたバイクを譲ってもらいすべて自分の手で修復しました。

雨ざらしで長期間放置されていたことや、欠品や破損など問題がたくさんあり何から手を付けて良いのかまったく先の見えない作業でしたが空いた時間を見つけてコツコツと修理を行い半年以上の時間をかけてようやく完成させることができました。

今までは簡単な整備しか行ったことしかありませんでしたが、今回のバイク修理を通して改めてバイクの仕組みを理解するいい機会となりました。また手間がかかった分、走れる状態になったときは今までのバイクライフで味わったことのない感動を得られ、これまでの苦労を一瞬にして吹き飛ばしてくれるそんな経験ができました。

これからは新しい相方とともに多くの地に足を運び、多くの人と会うことに期待を膨らませつつ、安全運転を心掛けマナーをしっかりと守り快適なバイクライフを楽しみたいと思っています。



旅先での一枚

岐阜車体工業(株)

総務部

ほり あ ゆ み  
堀 亜侑美さん



我が社の



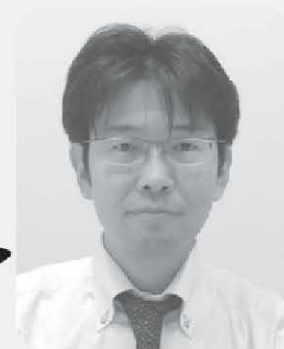
自分で出来ること  
が増えていくと  
嬉しいです。

会社内での人の  
つながりと出会いに  
喜びを感じます。

東洋ゴム工業(株)

原価管理部

たけうち しんすけ  
竹内 伸介さん



## Q1 どんなお仕事ですか。

秘書業務と庶務業務を担当しています。秘書業務では、会長・社長のスケジュール管理や来客対応等しています。庶務業務では、主に福利厚生を担当しており、食堂や施設等の管理をしています。入社して2年ほどになりますが、先輩にフォローして頂きながら、日々勉強しています。

## Q2 仕事で楽しいときは

お昼ごはんの時間です。きれいな食堂で仲間とわいわい話しながら、楽しくおいしいご飯を食べています。

また、業務ではまだわからないことがたくさんありますが、新しい仕事にどんどん挑戦をして、自分でできることが増えていくと嬉しいです。

## Q3 仕事でつらいこと

社会経験の浅い私ですが、社内の上司だけでなく、会社の窓口として社外の目上のお客様の対応をする機会が多くあります。失礼のないよう、人一倍気配りをするのは大変ですが、にこっと笑顔を忘れずに接するようにしています。

## Q4 これまでの仕事の中で 印象に残っている出来事は？

年に一度、会社を開放してお祭りを行っています。企画から参加し、大変なこともたくさんありましたが、当日は従業員とその家族、近隣住民の方約4000名にご来場していただき、盛大にとり行えたことが印象に残っています。大きな達成感を味わえたとともに、私自身楽しかったです。

## Q5 御社のPRをしてください！

“小粒でもピカッと光る会社”をモットーに、全社員一丸となって品質の良い車を生産しています。

ダントツ5S職場を目指して、製造現場もスタッフ部門も5Sの精神をもとに、日夜改善活動を推進しています。

## Q1 どんなお仕事ですか。

ダイバーテック事業(おもに自動車用防振ゴムやシートクッションなどの自動車部品を扱っている事業)において、予算差異分析を中心に損益管理を行っています。

毎月の実績を年度計画と対比し差異の要因分析を行っています。

## Q2 仕事で楽しいときは

予算分析を行った後、差異要因を各拠点の現場にヒアリングするのですが、電話だけの対応だけだとなかなか実情をつまびらかにしてもらえません。

そんな中、労組活動を通じて会社内での人のつながりが増え、出会った人たちからは、様々な情報を得られるようになったことに喜びを感じました。

## Q3 仕事でつらいこと

決算発表などの資料のために損益の分析をしなければならぬケースも多々あります。

そのメ切までの時間が短く、四半期に1度のペースで業務に追われる日々がやってくることでしょうか。(笑)

## Q4 これまでの仕事の中で 印象に残っている出来事は？

連結決算システムを刷新するためのチームに参画する機会があり、日常の業務に追われながら大変な思いもしましたが、そのシステムが社長賞を受賞することになり、地味な事務業務でも社内で評価されたことがとてもうれしかった。

## Q5 御社のPRをしてください！

当社、東洋ゴム工業(株)は、「TOYO TIRES」のブランド名のとおり売上高の8割はタイヤ事業ですが、非タイヤ部門であるダイバーテック事業では様々な自動車部品を製造しております。

今、車はタイヤで支えられていますが、そう遠くない未来では空を飛んでいるかも?!

当社は、車が空を飛ぶ未来になっても自動車部品で車を支え続ける企業でありたいと思っています。

## 2017年4月～9月 会員生産状況概要

## ① 合計

- ・4月～9月の累計台数は前年比1.0%減と、2016年以降2年連続で前年割れ
- ・乗用・小型商用・軽の委託生産車及びバスが前年割れとなったため

## ② 非量産車

- ・4月～9月の累計台数は前年比7.6%増と2015年以来2年ぶりに前年超え
- ・特装車、特装車、平ボデートラック、パン、トレーラ、大・中型バスの非量産車全てが前年超えとなったため

## ③ 特装車

- ・4月～9月の累計台数は、前年比5.9%増と2014年以来3年ぶりに前年超え
- ・輸送系の復調により本年1月から8か月連続で前年超えであったが、9月はリヤダンプ等輸送系が減少し、9か月ぶりに前年割れ。高所作業車等作業系は15か月連続で前年超え

## ④ 特種車

- ・4月～9月の累計台数は、前年比16%増と2015年以来2年ぶりに前年超え。7月から3か月連続で前年超え
- ・量産系は警察車両、車いす移動車とも増加したため、同19%増。非量産系は同8.7%減

## ⑤ 平ボデートラック(除 シャシメーカー標準トラック)

- ・4月～9月の累計台数は、前年比4.0%増と2015年以来2年

ぶりに前年超え

- ・大型が減少。中型と小型・軽は増加。普通あり、深あり、車両運搬車(1台積)が増加

## ⑥ パン

- ・4月～9月の累計台数は、前年比8.7%増。2015年に対しては同25%増と大幅に増加
- ・大型、中型、小型・軽のいずれも前年超え。ドライバン・冷凍車・ウィングの全車型が前年超え

## ⑦ トレーラ

- ・4月～9月の累計台数は、前年比12%増。本年2月以降4月まで減少が続いたが、5月以降は6月を除き前年超え
- ・車種別では、主力のコンテナが同22%増、パンが同14%増

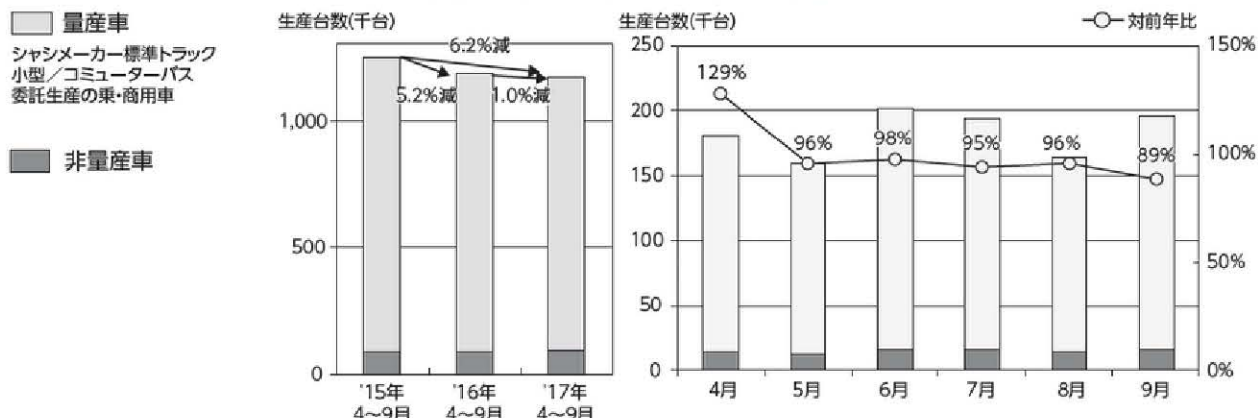
## ⑧ 大・中型バス

- ・4月～9月の累計台数は、前年比0.5%増、2015年に対しては同32%増と大幅に増加。本年4月より3か月連続で前年超えであったが、7月以降は3か月連続で前年割れ
- ・訪日外国人旅行者数の増加や、新運賃制度によるバス事業者収益の改善等により観光バスだけでなく路線バスも好調

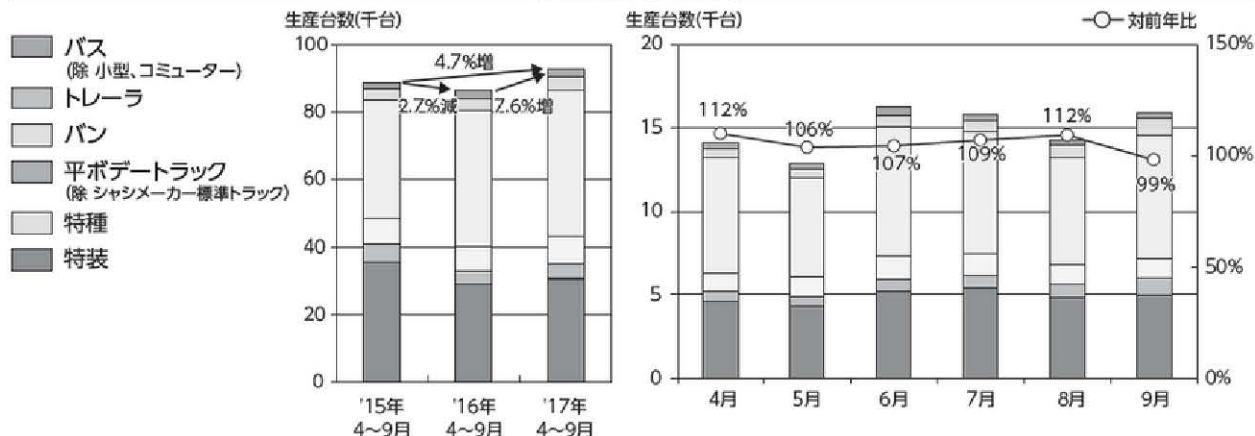
## ⑨ 乗用・小型商用・軽

- ・4月～9月の累計台数は、前年比0.6%減。国内向けは同1.4%減、輸出向けは同0.4%増

## 合計 (非量産車+量産車)

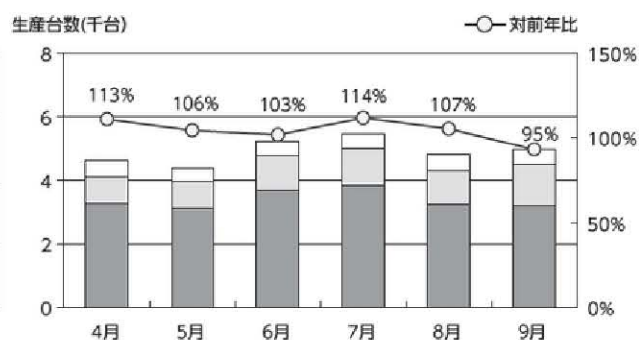
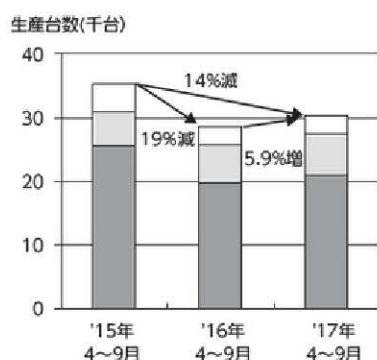


## 非量産車合計



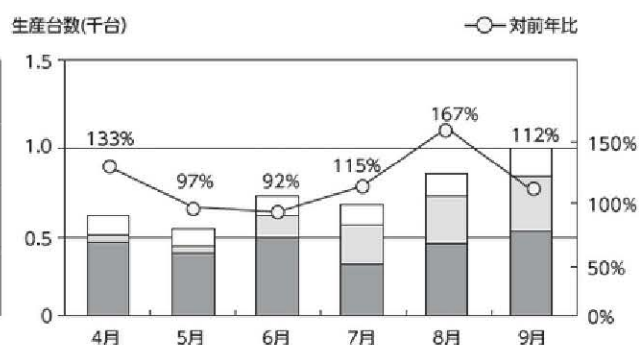
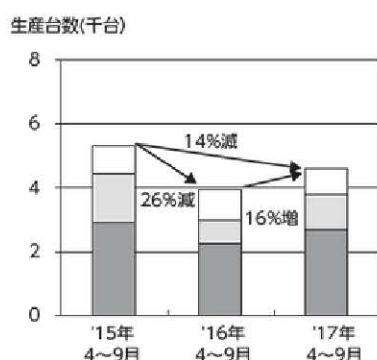
## 特装車

□ 輸出  
 ■ 作業系・その他  
 ■ 輸送系



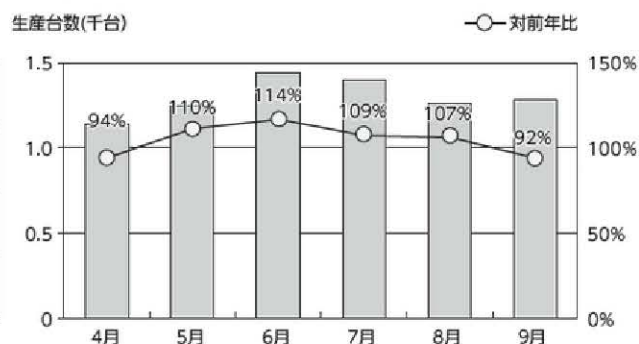
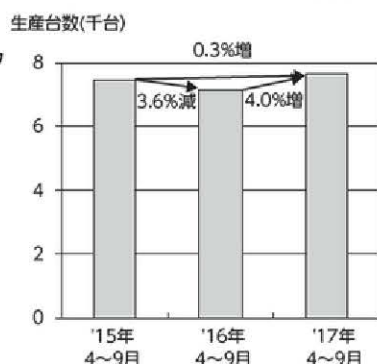
## 特種車

□ その他  
 ■ 緊急用  
 ■ 車いす移動車



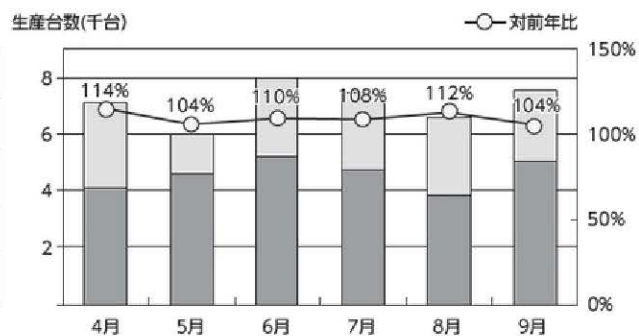
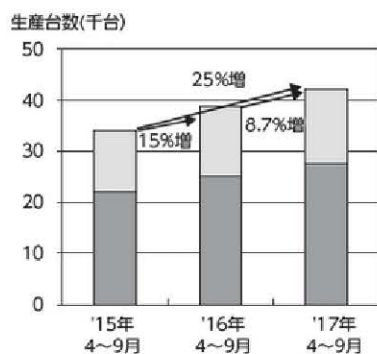
## 平ボデートラック

■ 平ボデートラック  
 (除 シャシメーカー  
標準トラック)



## バン

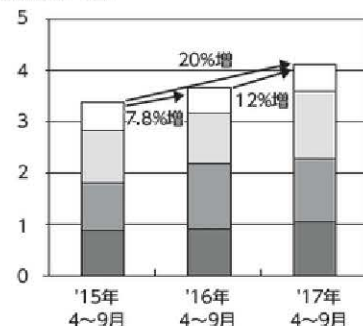
■ 冷凍・保冷車  
 ■ バン  
 (除 冷凍・保冷車)



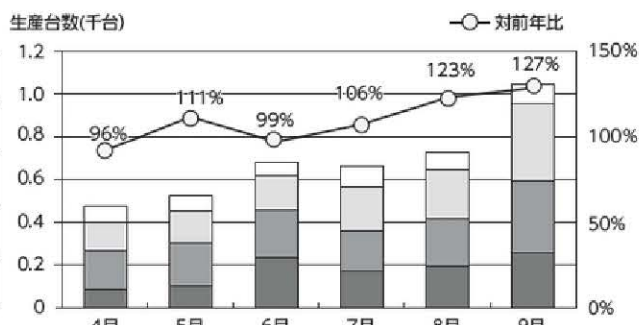
## トレーラ

- その他特装系
- コンテナ
- パン
- 平床・低床

生産台数(千台)



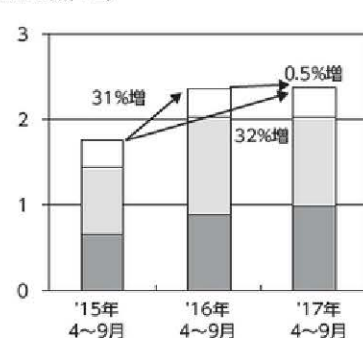
生産台数(千台)



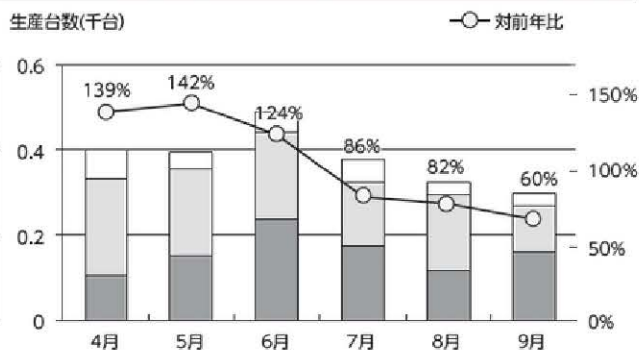
## 大中型バス

- 自家用
- 観光
- 路線

生産台数(千台)



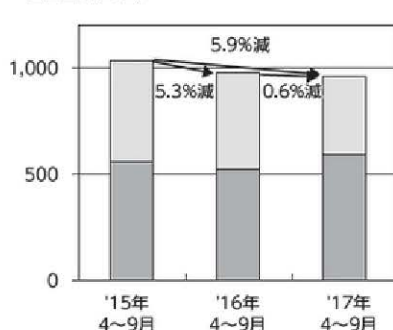
生産台数(千台)



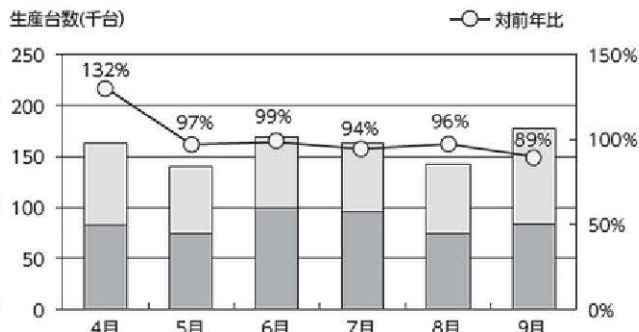
## 小型車 (委託生産の乗・商用車)

- 輸出
- 国内

生産台数(千台)



生産台数(千台)



## 車体工業会会員生産台数の公表について

昨今の急激な景気変動に伴う業界全体の状況をいち早く社会全体へ公表するために、生産台数データを当会ホームページに公開しておりますので、下記サイトをご覧ください。

<http://www.jabia.or.jp/data/index.php>





## 編集後記

「ものづくりは人づくり」という説明を多くの企業が行っている。いかなる時代であっても人材育成が企業の永続的繁栄にとって必要であるとの認識に立っての考え方だと思う。特に、マネージャと位置づけられた方は、人材育成こそが仕事であると教えられた方も数多くいらっしゃるのではないかな。

日本のものづくりはこうした基盤をもち、その上に様々な歴史を積み上げ、現在につながっている。一方、人材育成を意識して実行しているマネージャーはどれほどいるのだろうか。自分は仕事を通じ人材育成に取り組んでいると考えている方もおられると思う。私もそのひとりであるが、果たしてそれが人材育成につながっているのかは定かではないと感じている。

ものづくりは製造会社だけの特権ではない。膨大な情報が適切に発信され、それに基づきものづくりが成り立っているのが現代である。ネット社会で必要となったものを注文し迅速に届けられる仕組みもものづくりには欠かせない。お客様の意見や仕事とは関係ないと思っている人たちの発言が製品に生かされたという事例は枚挙にいとまがない。

ネットでつながった社会だからこそ、人の役割や価値が高くなるのだと思う。だから「人づくりがものづくり」に本当につながっているのかを意識し、行動できる人になりたいと日々思っているが、実行がともなっていないことに反省するばかりである。

(吉田)

表紙写真について

(株)アイチコーポレーション製  
SK12C1FN型高所作業車

SK12C1FNは看板、信号メンテナンス、伐採など各種工事にお使い頂ける高所作業車です。その汎用性の高さから自家保有のみならず、レンタル機としても採用されています。オプション装備として工具箱や荷台に豊富なバリエーションが揃っており、様々な現場に対応できることが特長です。



## お知らせ

### 2018年自動車工業団体 新春賀詞交歓会のご案内

- ◆ 日 時 2018年1月5日(金) 16:00~17:30
- ◆ 場 所 グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール3階「こさる崑崙」 東京都港区高輪3-13-1 TEL 03-3442-1111
- ◆ 内 容 1名につき 10,000円

### 技術発表会のご案内

- ◆ 日 時 2018年1月18日(木) 14:30~16:30
- ◆ 場 所 日本自動車会館1階 くまプラザ会議室 東京都港区芝大門1-1-30
- ◆ 内 容 会員各社の新技術、新製品に関する発表6件

<問い合わせ先>

日本自動車車体工業会 総務部  
TEL 03-3578-1681

この会報「車体NEWS」は、主として自動車車体にかかわる法令改正等の動きを情報としてとりまとめ、春、夏、秋、冬の4回、季刊発行により関係方面の方々に毎回およそ1,700部を送付させていただいております。送付先は当工業会会員事業所他全国の大型車等の自動車販社、各都道府県のバス、トラック協会、バス、トラックの大手ユーザー、全国の経済産業局、運輸局、運輸支局、自動車技術総合機構、日本自動車車体整備協同組合連合会、軽自動車検査協会及び自動車関係団体となっております。

## 車体NEWS WINTER 2017 冬

2017年12月15日発行

発行所 一般社団法人 日本自動車車体工業会  
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30

TEL.03-3578-1681 FAX.03-3578-1684

発行人 吉田 量年

### 広告掲載会社

- タキゲン製造株式会社 ..... 表2
- スリーエム ジャパン株式会社 ..... 表3
- 株式会社ワイズマン ..... 表4

# 美しさと安全性の両立

Beauty & Safety スリーエムからの提案です。

夜間や薄暮に多発するトラックなど大型車両の事故。車両の視認性低下が原因のひとつとなっています。夜間の事故防止には再帰反射材による車両マーキング(線状再帰反射材、輪郭再帰反射材、特徴等表示再帰反射材)が不可欠です。その効果は様々な研究報告により明らかになっています。

わが国では「道路運送車両の保安基準」でその取付要件が規定されました。すでに欧米では多くの国々で取付要件が規定されており、義務化された国もあります。スリーエムではこの基準に適合した(※Eマーク付)3M™ダイヤモンドグレード™コンスピクイティ反射シートと3M™反射シート680Eシリーズを提供しています。

また、スリーエムでは従来より車体のボデーをPR媒体として活用するフリートマーキングシステムの概念を提案し、スコッチカル™フィルム、コントロールタック™プラスフィルムおよびグラフィックスを提供してきました。トラック輸送の有効性、重要性が今後さらに見直される傾向にあります。

今こそ安全性とPR効果がキーワードの車両マーキングとフリートマーキングの採用を検討する時期です。



3M™ダイヤモンドグレード™  
コンスピクイティ反射シート

3M™反射シート680Eシリーズ

スコッチカル™ フィルム

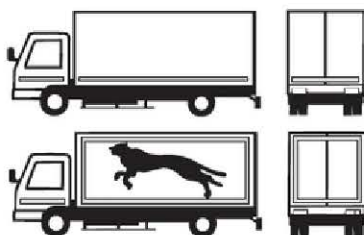
コントロールタック™プラスフィルム

## 3M™ ダイヤモンドグレード™ コンスピクイティ反射シート

入射光を光源方向にまっすぐ戻す、再帰反射効果をもったプリズムレンズ型反射シートです。ヘッドライトの光などで明るく輝き、自車の存在を相手に強くアピールします。

### ■おもな特徴

1. 従来品に比べ、反射効果が大幅にアップしています。
2. 広角性にすぐれ、カーブ時の見やすさも十分に確保できます。
3. 取り扱いが簡単です。裏面の透明フィルムをはがすだけで、多くの車体に直接貼ることができます。
4. 耐久期間は約7年です。(当社ガイドライン通りに貼付された場合)。



※Eマークとは：国連の車両等の相互承認協定規則(ECE)R104の要件に適合した製品に付記することができるマーク。このマーク入りの製品は「道路運送車両の保安基準の細目を定める告示、別添105」に定める技術基準に適合している製品でもあります。

## 事故減少に対するコンスピクイティ反射シートの有効性に関わる研究報告

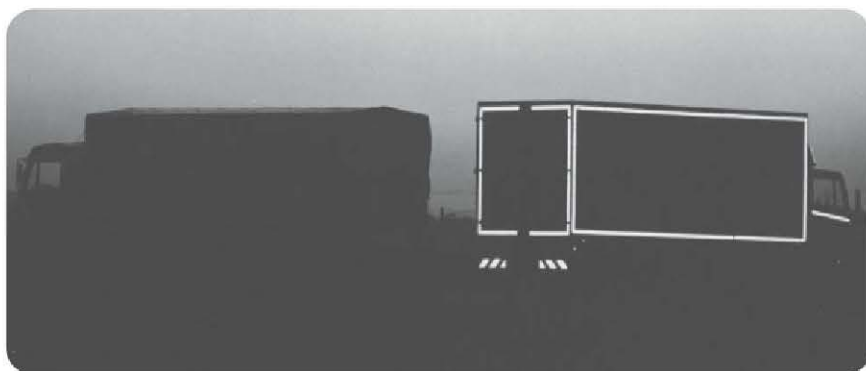
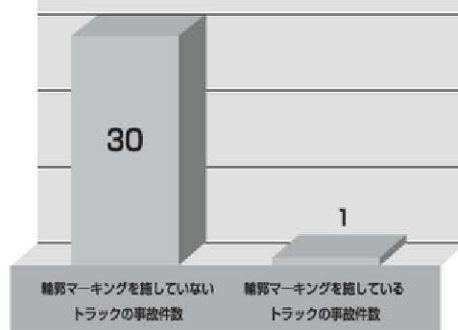
### ■ヨーロッパにおける研究報告

- 夜間や薄暮におけるトラックの側面・後面への衝突事故の約40%が“みられやすさ”(コンスピクイティ)不足により発生している。
- 再帰反射材の輪郭マーキングを施したトラックの事故件数は、施していないトラックの事故件数の約1/30だった。

### ■米国における研究報告

- 再帰反射材による車両マーキングは重量トレーラーの側面・後面への衝突事故を約30%減少させた。特に夜間では約40%減少させた。

### ■事故件数対比



## スリーエム ジャパン株式会社

トラフィック セーフティ・セキュリティ事業部

本社 〒141-8684 東京都港区北品川6丁目7番29号

電話 03-6409-3388

URL <http://www.mmm.co.jp>

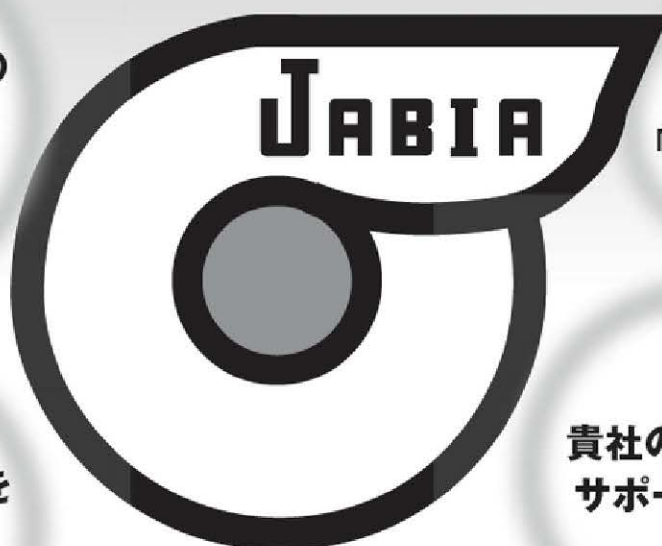
3M

生産物賠償責任保険

# 日本自動車車体工業会 団体PL保険制度

自動車メーカーだけではなく、  
車体メーカー、部品メーカーも責任を問われる時代です。

車体工業会会員の  
皆様のための  
専用の保険制度。



PL事故を  
幅広く補償。

スケールメリットを  
生かした割安な  
保険料。

貴社のPL対策を  
サポートします。

## 制度の趣旨

- (一社)日本自動車車体工業会の会員の皆様のためのPL保険制度です。
- PL事故及び架装等が原因で生じた賠償事故の損害に対応します。  
車体工業会のスケールメリットを生かした制度で多くの会員の皆様にご利用いただいております。
- この広告は概要を説明したものです。詳しい内容については、取扱代理店にお問い合わせ下さい。

取 扱 代 理 店：〒103-0004 東京都中央区東日本橋3丁目11番11号 東日本橋Y'sビル7F 株式会社ワイズマン 東京支店  
TEL. 03-5623-6455 FAX. 03-5623-6488

株式会社 ワイズマン

SJNK16-02513 2016/05/26